2023年度

国際日本学部演習案内

School of Global Japanese Studies
Seminar Syllabus

明 治 大 学

Meiji University

目　　次 /Contents

1. ゼミナール（演習）とは何か / What is zemi? ･･････････････････････････････････ 2

2. 演習入室試験について（日本語版）
演習入室試験日程･･ 4
演習入室試験受験上の注意･･ 6
演習入室試験申込手続･･ 7

3. Screening Information (in English)
Screening Schedule･･ 10
Important Notes･･ 12
Application procedure for the Screening･･････････････････････････････････････ 13

4. 2023 年度国際日本学部演習担当教員一覧/List of Seminar lecturer in AY2023 ･･････ 15

5. 演習概要（教員別）/ Seminar syllabus
01　ヴァシリューク, スヴェトラーナ/VASSILIOUK, Svetlana ･･････････････････････ 16
02　鵜　戸　　聡　/UDO, Satoshi･･ 17
03　　呉　　在　垣 /OH, Jewheon･･ 19
04　大須賀　直子 /NAOKO, Osuka･･ 20
05　大　矢　政　徳 / OYA, Masanori･･････････････････････････････････････ 21
06　小笠原　　泰　/OGASAWARA, Yasushi ･･････････････････････････････････ 22
07　小　野　雅　琴 /ONO, Makoto ･･ 25
08　　岸　　磨貴子 /KISHI, Makiko ･･････････････････････････････････････ 26
09　ｸｴｸ, ﾏｰﾘ　J.N.H./QUEK, Mary･･ 27
10　琴　仙　姫 /KUM, Soni･･ 28
11　小　谷　瑛　輔 /KOTANI, Eisuke･･････････････････････････････････････ 30
12　小　森　和　子 /KOMORI, Kazuko･･････････････････････････････････････ 31
13　佐　藤　　郁　/SATO, Iku ･･ 32
14　鈴　木　賢　志 /SUZUKI, Kenji･･････････････････････････････････････ 33
15　瀬　川　裕　司 /SEGAWA, Yuji ･･････････････････････････････････････ 34
16　田　中　絵　麻 /TANAKA, Ema･･････････････････････････････････････ 35
17　田　中　牧　郎 /TANAKA, Makiro･･････････････････････････････････････ 36
18　戸　田　裕美子 /TODA, Yumiko･･････････････････････････････････････ 37
19　長　尾　　進　/NAGAO, Susumu･･････････････････････････････････････ 38
20　萩　原　　健　/HAGIWARA, Ken･･････････････････････････････････････ 39
21　廣　森　友　人 / HIROMORI, Tomohito･･････････････････････････････････ 40
22　眞　嶋　亜　有 / MAJIMA, Ayu ･･････････････････････････････････････ 41
23　溝　辺　泰　雄 /MIZOBE, Yasuo ･･････････････････････････････････････ 43
24　美濃部　　仁　/MINOBE, Hitoshi･･････････････････････････････････････ 45
25　宮　本　大　人 /MIYAMOTO, Hirohito･･････････････････････････････････ 46
26　森　川　嘉一郎 /MORIKAWA, Kaichiro･･････････････････････････････････ 47
27　山　脇　啓　造 /YAMAWAKI, Keizo･･････････････････････････････････････ 49
28　ワルド, ライアン　/MINOBE, Hitoshi･･････････････････････････････････ 50

ゼミナール（演習）とは何か

国際日本学部長
鈴木　賢志

ゼミとは何でしょう。正直なところ、この学部で教え始めたばかりのころ、私はよく分かっていませんでした。実は、私は自分の学生時代にゼミという形式の授業を半年しか受けたことがありません。その時は先生の著書を分担して読み、それに関連してそれぞれ調べたことを発表するというものでした。その後、私は長らく海外の大学で過ごしましたが、学生としても教員としても、ゼミという形式の授業を経験することはありませんでした。ゼミというスタイルは、国際的にはかなり特殊な学びの形なのです。帰国して明治大学国際日本学部で教えるようになり、初めてゼミの学生の募集案内を書いた時には、ずいぶん悩みました。日本での教育経験が長い何人かの先生に「ゼミって、何をすれば良いのでしょう」と聞いてみると、「君のやりたいようにやればいいんだよ」と、何とも答えになっていないような答えが返ってきて、途方に暮れてしまったことをよく覚えています。

それから長い月日が経ち、今年はとうとう１４回目の募集となりました。これまでの試行錯誤と経験によって分かったのは、やはり結局は「やりたいようにやればいい」なのだ、ということでした。すなわち、一人一人の教員が、それぞれの専門的な見地から自分が最も有益であると信ずる教育を行うことが、学生のみなさんが充実した学びを得るための最善の方法だということなのです。

ただし、いくら教員が手をつくしても、みなさんが待ちの姿勢で「学ばせてもらう」のを待っているのでは、2 年かけても何も得られません。ゼミが少人数であることの利点は、きめ細かく教えてもらえることだけではありません。あなたがどのような興味関心を持って、その教員から何を教わりたいのかを、しっかりと伝える機会を得られるということなのです。そして、それはあなた自身がしっかり考えなくてはならないことです。

なお、ゼミは個人ではなくグループで活動することも忘れてはなりません。そのことは、時としてあなたの行動を制約することになるかもしれません。けれども互いに協力し、切磋琢磨し合うことで得られるものは非常に大きいのです。さらにゼミを通じて得られるつながりは、将来にわたって続く、かけがえのない財産となります。

本学部の多くの皆さんが、ゼミを通じて新しい学びを体得し、また新しい出会いを育むことができるよう、心から願っています。

What is zemi?

Kenji Suzuki
Dean, School of Global Japanese Studies

What is zemi? To be honest, I did not have the answer when I started to teach at this School. In fact, I took a zemi class for only one semester when I was a student myself. At that time, we merely read a book of the teacher and presented a research only in brief. I was at non-Japanese universities thereafter, and I had no zemi either as a student or as a teacher. After all, zemi is very unique of Japan. When I came back to Japan to teach at this School, I had no experience of zemi. Hence it was very difficult for me to write a syllabus of zemi. I remember that I asked my older colleague what I should do for zemi, and that the answer was “You can do whatever you like” - I was at a loss in the end.

Long time has passed since then, and this is the 14th time of our zemi guidance. After many trials and errors and various experiences, I have now concluded that it is best to do whatever I like. I now believe that it is best for our teachers, as highly qualified experts of their own fields, to do whatever they like, so that they can provide the best education for the students.

However, you cannot get anything, even taking two years, if you just wait “to be learned”. Zemi is composed of a small number of students, and that is beneficial to you not only because you are cared more in class, but also because you have more chances to express what you are interested and what you expect to learn. Of course, you have to prepare yourself for that.

Having said that, you have to remember that zemi acts as a group, and that is not an individual lesson. That might be a restrict at times, but you may well gain valuable experiences from cooperation and mutual development by various group-based activities.

I sincerely hope that many of you at this School will learn new things and meet many new people with zemi, which help you develop even further.

2. 演習入室試験について（日本語版）

演習入室試験日程

１　演習入室選考試験ガイダンス動画/演習紹介動画　配信

日程：１１月９日（水）１０：００～

方法：WEB 配信

２　入室選考試験

（１）一次募集

①個別ガイダンス　１１月２１日（月），２２日（火），２４日（木）

［実施日時・会場］対面または Zoom を使用したオンライン形式で実施。

※詳細は後日 Oh-o! Meiji で配信します。

※担当者によっては個別ガイダンスへの参加を必須としている場合があります。

②演習申込　１１月２１日（月）１２：００～１１月２４日（木）２３：５９

［申込方法］Oh-o! Meiji ポータルページのアンケートに回答してください。

③選考試験　１２月３日（土）１０：００～

［試験会場］Oh-o! Meiji グループ機能で配信します。

④合格発表　１２月６日（火）

［発表場所］Oh-o! Meiji グループ機能で配信します。

（２）二次募集

①個別ガイダンス　１２月１３日（火）～１２月１５日（木）

［実施日時・会場］対面または Zoom を使用したオンライン形式で実施。

※詳細は Oh-o! Meiji で配信します。（1 次募集　合格発表時）

※担当者によっては個別ガイダンスへの参加を必須としている場合があります。

②申込受付　１２月１３日（火）１２：００～１２月１５日（木）２３：５９

［申込方法］Oh-o! Meiji ポータルページのアンケートに回答してください。

③選考試験　２０２３年１月２１日（土）１０：００～

［試験会場］Oh-o! Meiji グループ機能で配信します。

④合格発表　２０２２年１月２４日（火）

［発表場所］Oh-o! Meiji グループ機能で配信します。

（３）三次募集

２０２３年度４月に実施します。詳細は後日お知らせします。

3　留学をしている学生について

2年次秋学期/3年次春学期に留学している場合でも，留学しない他の学生と同じ日程および方法で手続きを行う必要がありますので注意してください。また，試験や申込受付等の時間はすべて「日本時間」を基準に行われます。十分に注意してください。

入室試験は各演習担当教員が個別に実施します。なお，試験については留学しない学生と同じ日程で実施する予定ですが，時差等による配慮を希望する場合は，E-mail等で演習担当教員へ各自,依頼をしてください。

2.　演習入室試験について（日本語版）

演習入室試験受験上の注意

受験にあたっての注意事項は以下のとおりです。

1　各演習の募集人員は、10～21 名です。

2　入室試験の申し込みは、**Oh-o!Meiji ポータルページに配信されるアンケートを利用して、**各期限内に手続きをしてください。
締切厳守。期限を過ぎた場合、申し込みをすることはできません。

3　締切後に Oh-o!Meiji のグループを作成します。アンケートに回答した演習のグループに入っているか確認をしてください。

4　演習入室試験日程等演習に関係する重要なお知らせはすべて Oh-o!Meiji で配信します。
演習入室試験実施期間中は、随時確認するようにしてください。

5　同一募集期間内に複数の演習を受験した者は、**すべて無効（不合格）**となります。

6　**合格が決定した者は、それ以降の受験資格を失います。**ただし、４月に募集する演習への入室試験に限り、既に合格が決定した演習の担当教員の了承を得たうえで、受験することが認められます。

7　４月に募集する演習に入室を希望する場合も今回の演習入室試験を受験することは原則可能です。ただし、もし今回の演習入室試験に合格した上で４月に募集する演習を受験するためには、既に合格が決定した演習の担当教員の了承を得なければなりません。
４月に募集する新任教員等の演習入室試験の受験を希望している場合は、今回受験する予定の教員に、個別ガイダンス等を利用して、事前にその受験の可否について必ず確認して下さい。

8　担当者の都合で３年次のみ開講する場合があります。対象となる演習はガイダンスでお知らせします。

2. 演習入室試験について（日本語版）

演習入室試験申込手続

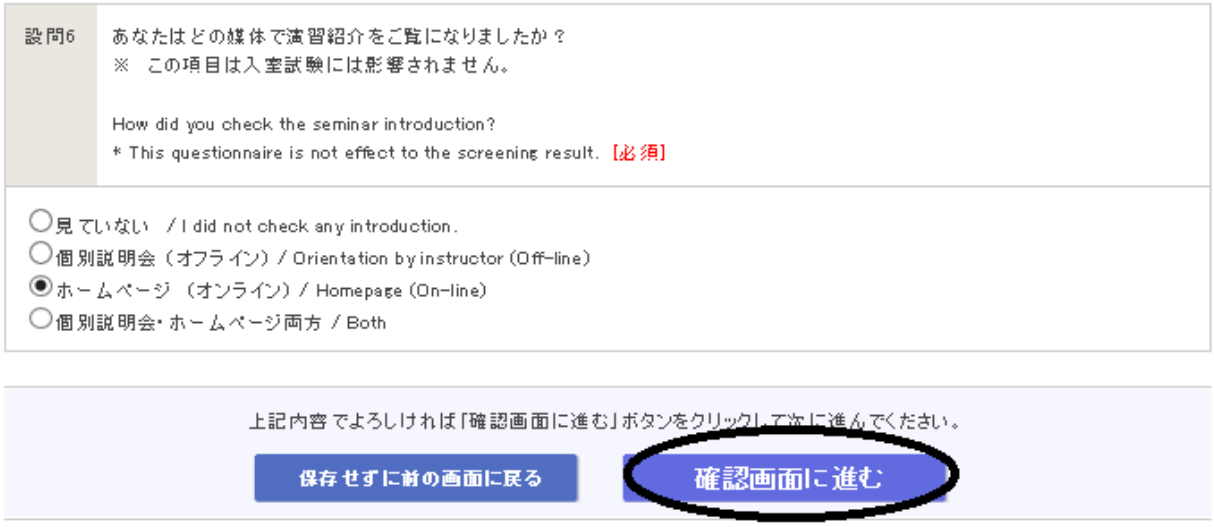
入室試験（一次・二次）の申し込みは，Oh-o! Meiji ポータルページに配信されるアンケートを利用して行います。申込手続き方法は以下のとおりです。

1　「Oh-o! Meiji システム」(https://oh-o2.meiji.ac.jp/portal/index) のポータルページへログインしてください。Oh-o! Meiji システムのポータルページへのログインには，共通認証パスワードが必要になります。忘れてしまった場合は速やかに事務室窓口にて再発行の手続きをしてください。電話による再発行の問い合わせは受付けません。

2　自身のポータルページが表示されます。受付期間になったら，アンケート「2023 年度演習入室試験一次申込手続き」を選択してください。

３「2022 年度演習入室試験一次申込手続き」の画面が表示されますので，
　必要情報を全て入力してください。

４　すべて入力したら，「確認画面に進む」を選択してください。<u>※まだ申込完了ではありません。</u>



5　入力内容の確認画面が表示されますので，必ず入力内容を再度，確認してください。問題がなければ「回答する」をクリックしてください。入力内容に修正を加える場合は「前に戻る」を選択し，修正してください。

入力内容確認画面を確認後，「回答する」をクリックすれば，申込完了です。

※申込内容は期間内であれば修正することができます。

※上記は一次申込手続きを例に挙げましたが，二次申込手続きも同様の手続きとなります。

3. Screening

Screening Schedule

1 Online videos: Seminar Screening guidance video / Seminar Introduction videos

The videos will be available from **Wednesday, November 9**

Please check the website.

2 Seminar Screening

(1) Period 1

① Seminar guidance: **Monday, November 21, Tuesday, November 22, and Thursday, November 24**. Each seminar will give an introduction guidance via face-to-face or Zoom.

*We will announce details on Oh-o! Meiji.

*Taking part in this guidance may be one of the conditions for joining some seminars.

② Application: **From Monday, November 21, 12 pm (noon) – Thursday, November 2, 11:59 pm**

You can apply by answering the Oh-o! Meiji questionnaire.

③ Screening: **Saturday, December 3, starting from 10 am**

Details will be announced in each Oh-o! Meiji group.

④ Results: **Tuesday, December 6**

Results will be announced in the same Oh-o! Meiji group.

(2) Period 2

① Seminar guidance: **Tuesday, December 13 - Thursday, December 15**

Each seminar will give an introduction guidance via Zoom.

*We will announce details on Oh-o! Meiji, with the screening results for Period 1.

*Taking part in this guidance may be one of the conditions for joining some seminars.

② Application: **Tuesday, December 13, 12 pm (noon) - Thursday, December 15, 11:59 pm.**

You can apply by answering the Oh-o! Meiji questionnaire.

③ Screening: **Saturday, January 21, from 10 am**

We will announce details in an Oh-o! Meiji group.

④ Results: **Tuesday, January 24**

Results will be announced in the same Oh-o! Meiji group.

(3) Period 3

The third period will be in April 2023. Details will be announced when decided.

3 For students studying abroad

Even if you study abroad in the Fall Semester of your second year or the Spring Semester of your third year, you must also follow the same schedule and procedures as other students. Please note that all dates and times are in Japan Standard Time (JST).

Each instructor will conduct screening individually. We will generally hold the screening with the same schedule as other students. However, please contact each instructor by email if you need consideration for the time difference or other issues.

3. Screening

Notes for application

Please make sure to read before you apply.

1 Each seminar will accept up to 10 to 21 students.

2 Please apply for Seminar Screening by answering the **Oh-o! Meiji questionnaire during each application period.** You cannot apply after the deadline.

3 We will create an Oh-o! Meiji group for each seminar after the deadline, so please check that you are in the seminar group you applied for.

4 We will send you all notices with Oh-o! Meiji, so please check your messages regularly.

5 You can only apply for one seminar during each period. If you apply for more than one seminar during a single period, all results will be invalid.

6 If you pass a screening for a Seminar, you can no longer apply for screening in the next period. However, if there are new seminars available in April, you can apply. If you wish to change your seminar in April, please seek approval from the instructor of the first seminar.

7 It is generally possible to apply for screening at this time, even if you intend to join later a seminar that has screening in April. However, if you pass the screening in the Fall Semester, you will need the approval of the first seminar's instructor before you can apply to the new seminar. If you already plan to apply for a new seminar in April, make sure to confirm in advance with the first seminar's instructor, during seminar guidance, etc., whether this will be permitted.

8 There may be seminars that will only be held in your third year (two semesters). Details will be announced in the guidance of each seminar.

3. Screening

Application

For Period 1 and Period 2, please apply for the seminar screening from the Oh-o! Meiji questionnaire.

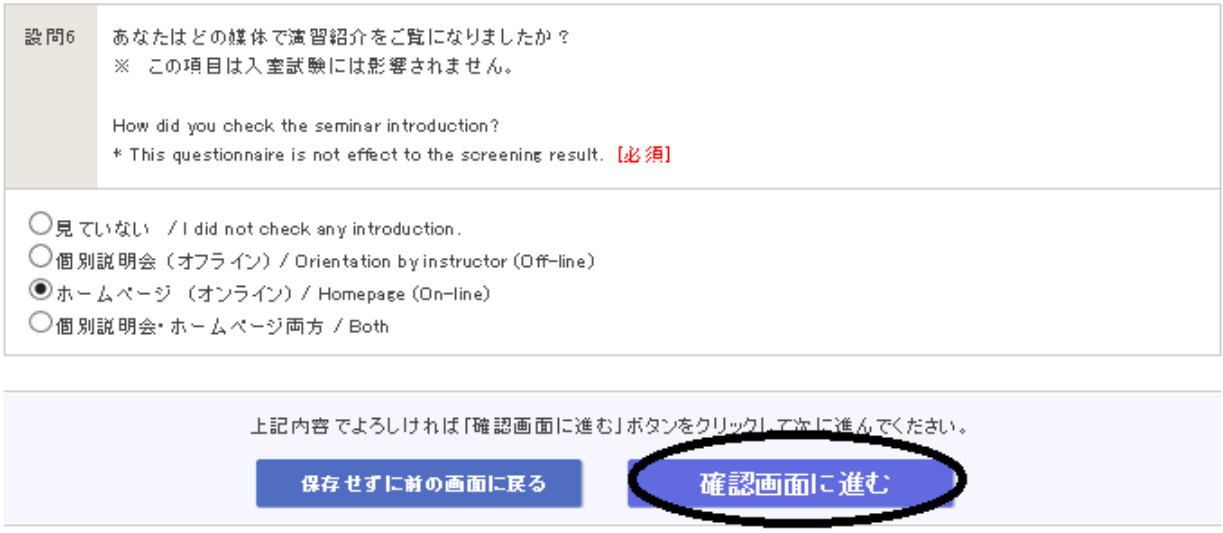
Instructions

1 Login to Oh-o! Meiji: https://oh-o2.meiji.ac.jp/portal/index

2 Choose **[2022 年度演習入室試験一次申込手続き]** (Application for Seminar Screening 2022) and go to the next page.

3 Fill out the required fields marked in red.

4　After you complete all questions, click “[確認画面に進む](Next). <u>You have not finished yet”.</u>



5　Make sure to re-check your answers on the screen. If anything is wrong, choose [前に戻る](Back). If everything is correct, choose [回答する](Submit).

※You can change the information you registered until the deadline.

2023年度 演習一覧
AY2023 List of seminar

担当者氏名 Lecturer	紹介動画 Movie	職名 Title	担当科目 Lecture Course	テーマ Theme	開講言語 Language
ヴァシリューク, スヴェトラーナ VASSILIOUK, Svetlana	–	教授 Prof.	国際関係論 International Relations	Japan's contemporary foreign relations in the Indo-Pacific Region (the IPR)	英語 English
鵜戸　聡 UDO Satoshi	※	准教授 Associate Prof.	フランス文化論 French Culture Studies	『アラビアンナイト（千夜一夜物語）』から学ぶ東西文化交流	日本語 Japanese
呉　在烜 OH Jewheon	リンク	教授 Prof.	日本的ものづくり論 Japanese Manufacturing Management	日本企業の研究	日本語 Japanese
大須賀直子 OSUKA Naoko	–	教授 Prof.	言語と文化 Language and Culture	翻訳を通して考える言語と文化	日本語 Japanese
大矢 政徳 OYA Masanori	–	准教授 Associate Prof.	英語学 English Linguistics	言語学入門	日本語 Japanese
小笠原　泰 OGASAWARA Yasushi	※	教授 Prof.	日本のビジネス文化 Business Culture in Contemporary Japan	デジタルテクノロジー革新とグローバル化による世界のGRAND TRANSFORMATIONについて考える	日本語 Japanese
小野　雅琴 ONO Makoto	–	講師 Senior Assistant Prof.	広告とメディア Advertising Practice and Media Studies	広告の理論実証研究	日本語 Japanese
岸　磨貴子 KISHI Makiko	–	准教授 Associate Prof.	インターネットと社会 Internet and Society	教育工学/学習環境デザイン	日本語 Japanese
クエク, マーリ QUEK Mary	–	特任准教授 Associate Prof.	ホスピタリティ・マネジメント論 Hospitality Management Studies	Project based learning in the hospitality and travel industries	英語 English
琴　仙姫 KUM Soni	参考 ※2022年度春学内展示	特任講師 Senior Assistant Prof.	メディア・アート Media Arts	Contemporary Art / Film and New Media / Curatorial Practices / Performance	英語 English
小谷 瑛輔 KOTANI Eisuke	※	准教授 Associate Prof.	近現代日本文学 Modern Japanese Literature	近現代日本のコンテンツ・メディア・物語	日本語 Japanese
小森　和子 KOMORI Kazuko	※	教授 Prof.	日本語教育学（語彙） Japanese Language Teaching (Vocabulary)	第二言語としての日本語の語彙習得	日本語 Japanese
佐藤　郁 SATO Iku	※	講師 Senior Assistant Prof.	ツーリズム・マネジメント Tourism Management	観光地のマネジメント／インバウンド観光	日本語 Japanese
鈴木　賢志 SUZUKI Kenji	リンク	教授 Prof.	日本社会システム論 Japanese Social Systems	北欧国家の社会システムと社会心理ー日本との比較から学ぶこと	日本語 Japanese
瀬川　裕司 SEGAWA Yuji	※	教授 Prof.	映像文化論 Film Studies	高度な批評能力を身につける	日本語 Japanese
田中　絵麻 TANAKA Ema	※	講師 Senior Assistant Prof.	テクノロジーと日本社会 Technology and the Japanese Society	コンテンツ産業論	日本語 Japanese
田中　牧郎 TANAKA　Makiro	リンク	教授 Prof.	日本語学 Japanese Linguistics	文化と社会から見た日本語論	日本語 Japanese
戸田　裕美子 TODA Yumiko	–	准教授 Associate Prof.	日本的流通システム論 Japanese Distribution Systems	日本的流通システム	日本語 Japanese
長尾　進 NAGAO Susumu	リンク	教授 Prof.	武道文化論 Cultural Studies in Budo (Japanese Martial Arts)	スポーツと現代社会	日本語 Japanese
萩原　健 HAGIWARA Ken	–	教授 Prof.	舞台芸術論 Performing Arts	"Performances" in Daily Life and Art Scenes	日本語又は英語 Japanese or English
廣森　友人 HIROMORI Tomohito	リンク	教授 Prof.	心理と言語 Psychology and Language Learning	外国語学習の科学：理論・研究・実践	日本語又は英語 Japanese or English
眞嶋　亜有 MAJIMA Ayu	※	講師 Senior Assistant Prof.	日本表象文化論 Japanese Representational Arts	学際的日本研究～ゼミでGlobal Japanese Studiesを極めてみる～	日本語 Japanese
溝辺　泰雄 MIZOBE Yasuo	※	教授 Prof.	世界のなかのアフリカ Africa in the Contemporary World	地域研究(Area Studies): 食と旅から世界を知る	日本語 Japanese
美濃部　仁 MINOBE Hitoshi	–	教授 Prof.	宗教と哲学 Religion and Philosophy	哲学	日本語 Japanese
宮本　大人 MIYAMOTO Hirohito	リンク	教授 Prof.	日本漫画史 History of Japanese Comics	メディアと大衆文化/サブカルチャー	日本語 Japanese
森川嘉一郎 MORIKAWA Kaichiro	※	准教授 Associate Prof.	日本先端文化論 Otaku Culture	マンガ・アニメ・ゲーム/デザイン/都市	日本語又は英語 Japanese or English
山脇　啓造 YAMAWAKI Keizo	リンク	教授 Prof.	多文化共生論 Issues in Intercultural Communities	多文化共生のまちづくり	日本語 Japanese
ワルド, ライアン WARD Ryan	–	講師 Senior Assistant Prof.	比較宗教論 Comparative Religious Studies	「死」の日本宗教史	日本語又は英語 Japanese or English

"リンク"をクリックするとリンク先へ移動します。ガイダンス前に必ず視聴してください。
※印の動画はOh-o!Meijiで配布している一覧からのみ閲覧可能です。
You can jump to each seminar's movie from the" リンク". Please watch it before joining the Individual guidance.
*** For Guidance Videos marked "※", you can only jump to the movie from the list distributed via Oh-o!Meiji**

01 ヴァシリューク, スヴェトラーナ（Svetlana Vassiliouk）教授

1. 演習のテーマ / Theme

This seminar offers lectures, discussions, and readings on the topic of "**Japan's contemporary foreign relations in the Indo-Pacific Region (the IPR)**," while reflecting on the history, policy foundations, and contentious aspects of Japan's relations with the region's major nations. During the two years in this seminar, students will participate in field trips, attend public talks, and prepare summaries, short reports, and news analyses pertaining to the topics covered in class. At the end of the 4th year, they are expected to write and present a research paper (thesis) covering one of the most controversial and/or unresolved issues in Japan's foreign relations in the IPR.

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

＜3 年次 / 3rd Year＞This seminar will begin with an overview of Japan's history of foreign relations in the Asia-Pacific, providing students with the historical frameworks for explaining and understanding Japan's contemporary Indo-Pacific policy. The seminar lectures, discussions, and readings will focus on a variety of core topics, such as: imperialism in East Asia and Japan's participation in major military conflicts of the 19th-early 20th centuries; the Pacific War (1937-1945) and its legacy in Japan and abroad, focusing on war remembrance, reconciliation efforts, and other key issues in Japan's relations with the key nations in the IPR.

＜4 年次 / 4th Year＞The seminar will continue tracking key issues in Japan's contemporary relations with the key nations in the IPR, while paying special attention to the rise of China and the impact of the declining power of the US in regional and global affairs. In preparation for the seminar's final research project, students will study the origins, the history of negotiations, and the prospects for the settlement of the most contentious issues in Japan's Indo-Pacific policy and foreign relations.

(2) ゼミ論の有無 / Thesis - Yes, required

(3) 評価方法 / Evaluation

＜３年次/3rd Year＞News Analysis 30%; Short Reports 30%; Presentations & Summaries 20%; Participation 20%

＜４年次/4th Year＞Thesis 60%; Presentations & Summaries 20%; Participation 20%

3. 使用テキスト / Textbook(s)

Seminar's reading materials for each semester will be distributed on the Oh-o!Meiji Class Web. Required textbook for the 4th Year (Spring Semester: James D. J. Brown and Jeff Kingston, eds, Japan's Foreign Relations in Asia (Routledge: New York, 2018).

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

Students should have good English language skills to do well in this seminar (recommended minimum scores TOEFL iBT 80, TOEIC 740, or IELTS 6.0).

5. 選考方法 / Screening

The students will have to write and submit a short essay in English describing their interest in this seminar and its study topics.

6. 演習入室までに学習してほしいこと/ What students should study before starting the Seminar

It is highly desirable that the students have completed basic courses in Political Science and/or International Relations prior to taking this seminar.

7. その他 / Others

Seminar events and additional information will be announced in class.

02 鵜戸聡 准教授

---

1. 演習のテーマ / Theme

『アラビアンナイト（千夜一夜物語）』から学ぶ東西文化交流

【注意 Notice】基本的に日本語で行いますが，英語など他言語の使用も歓迎します。Basically, this seminar will be held in Japanese, but English and other languages are also welcome.

ディズニーや劇団四季の『アラジン』は皆さんご存知でしょう。アラジンやシンドバード，アリババといったキャラクターはいまや世界的なコンテンツの一つです。その起源は中東にありながら，18 世紀フランスで出版され人気を博すことによって西洋における主要コンテンツの一つとして定着しました（日本にも明治時代から英仏語経由で移入）。『アラビアンナイト』は中東とヨーロッパの間の文化交流によって培われ，やがて世界的な文化遺産として今も人々に親しまれているのです。

この演習では，『アラビアンナイト』を切り口にして，東西文化交流，ヨーロッパにおけるオリエント表象，現代ポピュラーカルチャーでの展開など，幅広い文化現象について探究したいと思います。文学や絵画あるいは映画やマンガへの影響に注目するもよし，「ジールバージャ」といった鶏料理や「ショルバート」（シャーベットの語源）を再現したり，コーヒー文化との関わりを調べてもよいでしょう。やる気があればフランス語やアラビア語に触れてみることもできます。『アラビアンナイト』の基礎知識を共有した後は，各々の興味関心に応じて個人やグループで調査を行い，発表の機会を設けます。アリババのように隠された宝を発見していって下さい。イフタハ・ヤー・スィムスィム（開けゴマ）！

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

＜3 年次 / 3rd Year＞

まず始めに，全員で基礎知識を把握するために教科書（西尾哲夫『アラビアンナイト』岩波新書）を会読しながら，各々が関心のあるテーマを考えます。春学期末に研究構想発表を行い，秋学期には調査を進め，年度末に発表会を開催します。

＜4 年次 / 4th Year＞

3 年次のテーマを発展させながら，より高度な研究を推進します。希望者はゼミ論文を執筆します。

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

希望者のみ。

(3) 評価方法 / Evaluation

＜３年次 / 3rd Year＞　平常点と発表の半々で評価。
＜４年次 / 4th Year＞　平常点と発表の半々で評価。

3. 使用テキスト / Textbook(s)

西尾哲夫『アラビアンナイト』岩波新書，2007 年。

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

世界の多様な文化現象に関心を持つこと。予備知識は特に要求しません。

5. 選考方法 / Screening

受講生の関心や希望とゼミの内容が合致しているか面接で相談します。

6. 演習入室までに学習してほしいこと/ What students should study before starting the Seminar

自分がどのような文化現象に関心があるのか，自分自身との対話を進めておいてください。また，自分の興味関心にしたがって読書に励んでください。

7. その他 / Others

希望があれば，博物館見学や演劇鑑賞，国内外で合宿を行います。

03 呉 在烜 教授

1. 演習のテーマ / Theme

この演習は、日本企業のさまざまな活動に関する文献を購読し、ディスカッションすることによって、日本企業についての理解を深めるとともに、自分の「テーマ研究」を行うことによって問題設定と問題解決の方法論を学ぶことが目標です。そのためにまず日本企業のマーケティング活動や経営戦略、国際化・国際経営に関する文献を購読します。製造業だけではく小売業やサービス業など様々な業種の事例を扱う文献を読み、日本企業の経営方式や国際化について勉強します。

そしてこのような学習の過程で自分の関心・興味のある分野（「テーマ」）を決め、そこの不思議な現象について「問い」を立て、それをしかるべき研究方法に沿って研究していきます。このテーマ研究の成果は論文の形式、あるいはプレゼンテーション形式（パワーポイント資料）にまとめて提出します。

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

＜3 年次 / 3rd Year＞

3 年次の春学期には、身近な事例を扱っているマーケティング関連文献（書籍）を読みます。3 年次の秋学期には、多くの業種の事例を取り上げて経営戦略について説明している文献を購読します。毎回、一人あるいは二人が担当部分の要旨を報告し、皆でディスカッション理解を深めるように進めていきます。

＜4 年次 / 4th Year＞

4 年次の春学期には、日本企業の国際化と海外事業経営に関する文献を読み、日本企業のグローバル経営について学習します。秋学期はテーマ研究に集中して取り組みます。各自が自分のテーマ研究の進捗状況に合わせて報告を行い、コメントをもらって修正・補完して行きます。演習の終わりには、ゼミ合宿をしながら最終報告会を行います。

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

あり（論文の形式あるいはパワーポイント形式）

(3) 評価方法 / Evaluation

＜３年次 / 3rd Year＞　平常点（40%）、発表（60%）で行う。
＜４年次 / 4th Year＞　平常点（20%）、発表（30%）、論文（50%）で行う。

3. 使用テキスト / Textbook(s)

３年次の春学期には、『マーケティングを学ぶ』石井淳蔵著、発行：ちくま新書。
３年次の秋学期には、『ゼロからの経営戦略』沼上幹、発行：ミネルバ書房。
４年次の春学期には、『日本企業のグローバル・マーケティング』大石芳裕（編）、発行：白桃書房。

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

企業経営に関心をもち、積極的にゼミに参加できる学生を望みます。

5. 選考方法 / Screening

書類審査（詳細は個別ガイダンスの際に指示します。留学中の場合は別途案内します。）

6. 演習入室までに学習してほしいこと/ What students should study before starting the Seminar

学部開設科目の「経営学 A／B」を履修しておくことが望ましい。

7. その他 / Others

３年次の夏休みに海外合宿か国内合宿（9 月）、４年次の年明けには国内合宿を行う。

04 大須賀 直子 教授

1. 演習のテーマ

翻訳を通して考える言語と文化

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

＜3 年次＞

実際に翻訳をおこなうことが中心となります。春学期は、児童文学、ミステリーなどを訳して翻訳技術を磨きます。また、字幕翻訳の基礎を学び、実際に練習します。春学期の終わりには、各自が翻訳したい本または映画を選び、シノプシス（一種の企画書）を作成し、プレゼンテーションをおこなって秋学期に共同で翻訳する作品を選びます。秋学期は、完成度の高さにこだわって、１つの本または映画を完訳します。また、受講者の希望によって、翻訳に関する文献講読をおこない、研究発表をしていただくこともあります。

＜4 年次＞

各自がテーマを決めて翻訳、字幕翻訳、または翻訳に関連する研究をおこない、発表します。

(2) ゼミ論の有無

本または映画の翻訳をおこなうか、または翻訳に関連する研究論文を書きます。

(3) 評価方法

＜３年次＞ 平常点（20%）、発表（30%）、翻訳（50%）でおこなう。
＜４年次＞ 平常点（20%）、発表（20%）、翻訳/論文（60%）でおこなう。

3. 使用テキスト

授業内で相談をして決めます。

4. 応募学生に望むこと

担当である・なしにかかわらず、翻訳の課題は必ずやってくること。 課題の締め切りを守ること。 授業内では積極的に発言すること。 無断欠席は厳禁。

5. 選考方法

筆記試験とアンケート。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

特にありません。

7. その他

夏休みに合宿をおこなう予定です。

05 大矢 政徳 教授

1. 演習のテーマ / Theme

言語学入門：言語は人間の最も重要な特徴です．言語をより深く知ることは人間をより深く知ることに他なりません．このゼミでの学びを通じて，人間についての理解を深めていきましょう．

将来，英語教員として活躍することを希望する皆さんはぜひ履修を検討してください．

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

＜3 年次 / 3rd Year＞

教科書の各章の内容を理解し，Study question やタスクについて調べた結果をプレゼンテーションする．

＜4 年次 / 4th Year＞

3 年次で取り上げた内容の中からいくつかを選択し，それについてさらに調べた結果をプレゼンテーションする．

言語学に関連した話題について教科書以外の情報源から検索し，それについてプレゼンテーションする．

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

大学院進学希望者はゼミ論の提出を必須とします．それ以外の皆さんは任意です．

(3) 評価方法 / Evaluation

＜３年次 / 3rd Year＞

授業への参加態度：50%、プレゼンテーション：50%

＜４年次 / 4th Year＞

授業への参加態度：50%、プレゼンテーション：50%

3. 使用テキスト / Textbook(s)

Yule, G (2020) *The Study of Language* (7th ed.) Oxford University Press

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

言葉への興味を持った学生ならば誰でも歓迎です．

5. 選考方法 / Screening

希望学生には面談を行います．

6. 演習入室までに学習してほしいこと/ What students should study before starting the Seminar

英語以外の言語についても学習してほしいです．

7. その他 / Others

質問は以下のメールでお願いします．

masanori_oya2019@meiji.ac.jp

06 小笠原　泰　教授

1. 演習のテーマ / Theme

デジタル・テクノロジー革新とグローバル化による世界の Grand Transformation について
－　個人と企業と国家の間でのパワーシフトと２０年後に「SURVIVE しているために」を考える　－

社会のシステムは、社会、経済、政治関係によって成りたっていて、歴史的にこの三つの力関係は大きく変化（Grand Transformation）してきています。現在は優位になりつつある経済と権威と支配力（パワー）を失いつつある政治（国家）が対抗している状況と言えるでしょう。

「デジタル・テクノロジー革新と融合したグローバル化」により社会を開いたことで、個人と企業がよりパワーを獲得する一方、国家はパワーを失ってきています。その中で、先進国では、国家に対してパワーを強めた(自律した)個人とパワーを減じている国家に依存する、パワーが弱まった個人（パワーの低下が止まらない国家は、彼らをパワーの再強化に利用します）への二極化（分断と格差）が進行しつつあります。つまり、国家と企業と個人の３者間のパワーバランスが、「開いた世界」を志向する人々（anywhere）と「閉じた世界」を望む人々（somewhere）との間で異なっているということです。

トランプ大統領を選出した大統領選挙や Brexit の国民投票やフランス大統領選等の結果が示したように、この分裂は拮抗していて、自分の陣営により多くの人を引き込もうとする綱引きの状態であり、それは現在も続いていると思います。パワーが低下する国家は、国民国家という存在の性格上、より強い主権行使を望むので、コントロールしやすい「閉じた世界」に国民を引き込むことを望みます。事実、国家は、現在進行形のコロナウイルスの世界的蔓延やロシアのウクライナ侵攻を好機到来とし国家権力の再強化に利用しています。経済安全保障をことさら強調していますが、経済的競争力の裏打ちのない国家権力の強化は長くは機能しません。

問題は、今後の世界は「開いた社会」と「閉じた社会」のどちらに向かうかにあると思います。自由民主主義思想（選択肢の拡大と選択の自由）と市場経済を批判するのは構わないのですが、経済力が弱まり、パワーが減じていく国家は、果たして「閉じた社会」を望む人々を救えるのでしょうか。強いアメリカを主張したトランプおよび企業統制を強めるバイデン大統領ですが、かえって、アメリカはイノベーションという成長のモメンタムを失い、国際社会での強さ、そして、権威さえも失うのではないでしょうか。「貧しい民主主義より、豊かな権威主義」を邁進する中国も国家統制を一層強化する方向に向かうとアメリカと同じ道を歩む可能性が高いでしょう。

ポピュリズムの隆盛の本質は、多様化を認め、変化が当然の「開いた社会」を望む（あらゆる変化に可能性を見いだし、国を消極的にしか必要としない）人々と、多様化を認めず変化を拒否する「閉じた世界」を望む（あらゆる変化をリスクに感じ、国を積極的に必要とする）人々の分裂が起きているということです。かつてのように、国境という高い壁を前提に国家が主権を単独で行使し、そのなかで企業・市場と国民（個人）と国家のインタストは当然一致するという三位一体的な考えは急速に弱まりつつあると言えます。事実、自由民主主義思想がグローバルな形で個人や企業・市場に共有化される中で、国家のパワーの低下と言う大きな流れが反転することはないと想定しています。つまり、今後の世界では、もはや、国家は主権を単独で行使できる絶対的な存在ではなく、国家はグローバル化する世界の中でのプ

レーヤの一つであると考えることが必要となります。つまり、企業・市場、個人と並んだ、相対的プレーヤとしての国家とは、どのような存在であり、どのように変質していくべきであるかを見極める必要があります。それに応じて、企業や社会や個人の在り方も変化します。

現在の日本の状況は、**「変わりたくない、変えてはいけないと悪あがきをする国家」と「生き残るためには急速に変わらざるを得ないことを理解し、変身を始める合理的な企業」、その狭間で「リスクテイクの判断を迫られる、変わらなければいけないと思いつつ、体が動かない個人」**ということができると思います。

このような急速な環境変化を踏まえて、ゼミ生一人一人が個人として、どのように「デジタル･テクノロジー革新と融合した急速なグローバリゼーション」という環境変化に適応し、多様化する「開いた世界」の中で、20 年後を見据えて働くとは何かを考える、つまり、どう自分を VERSION UP し、SURVIVE するかを考えるのが、ゼミのテーマです。

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

＜3 年次 / 3rd Year＞

★ 疑念と批判的姿勢をもって、データと資料に基づいて考える態度を、個別ケースを題材として、身に着けるようにします。

★ グローバル化の進展とデジタル・テクノロジー革新による環境の変化を包括的に捉え、グローバリゼーションとはなにかについての認識を多角的に深めます。

★ 国家のパワーの低下と企業と個人のパワーの増大と社会の多様化について多角的に議論します。

★ ゼミ生各自の向かうべき方向性を見出す基礎を固めたいと思います。

＜4 年次 / 4th Year＞

★ ゼミ生一人一人が個人として、どのように「デジタル・テクノロジー革新と融合した急速なグローバリゼーション」という環境変化に適応し、多様化する「開いた世界」の中で、20 年後を見据えて働くとは何かを考えていきます。

★ 上記を踏まえて、課題テーマについてのグループワークを行い、その結論をまとめてグループで発表します。

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

ナシ（代わりに卒業発表を行います）※ゼミ論を希望する人は、相談してください。

(3) 評価方法 / Evaluation

＜3 年次 / 3rd Year＞

春学期・秋学期：定期発表(40%)議論への参加・貢献度（30%）各期終了レポート(30%)

＜4 年次 / 4th Year＞

春学期：定期発表(40%)、議論への参加・貢献度(30%)、春学期終了レポート(30%)

秋学期：定期発表(30%)、卒業グループ発表(70%)

3. 使用テキスト / Textbook(s)

特に指定しません。　課題図書は適宜指定します。

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

加速するグローバル化とテクノロジー革新の中で、そのダイナミックな変化に興味を持ち、知的好奇心が旺盛で、多様性を受け入れられる学生を望みます。そして、自分のリミッターを外してみたい人を望みます。

5. 選考方法 / Screening

事前課題と面接とします。海外留学中の学生はZOOM面接とします。

6. 演習入室までに学習してほしいこと / What students should study before starting the Seminar

デジタル・テクノロジーの急速な変化についての感度を高めておいてください。そして、ニュースやマスコミで多用されるグローバル化とポピュリズムとは、一体何を意味しているのかについて考えてみておいてください。

7. その他 / Others

夏休みに、２泊３日のゼミ合宿を行う予定です。

07 小野 雅琴 専任講師

1. 演習のテーマ / Theme

広告の理論実証研究

広告のゼミと聞いて、皆さんはどんな活動をイメージしますか？「広告鑑賞」あるいは「広告制作」かもしれません。ですが、そうではなく、どんな広告の結果として、何が起こるか、を探究することです。知識のないまま、実際の広告実務を観察しても、その答えは得られません。難解な「理論」を習得し、自ら「実証」を実施して初めて、その答えが得られるのです。当ゼミは、世界最先端の広告理論を身に着けた上で、統計解析技法を駆使して、理論の実証を行うことのできる人財を育成することを目指します。

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

＜3 年次 / 3rd Year＞

一年目は、インプット期間です。理論を身に着けるということがどういうことかをオススメ論文の輪読によって体得します。他方、実証を行えるようになるためにフリーソフト R を用いて実習を行います。

＜4 年次 / 4th Year＞

二年目は、アウトプット期間です。各自が気になる論文を探してきて、その論文の中で提唱されている最新理論を、実証ツールを使って評価します。具体的には、例えば、欧米の理論が日本ないしアジアの広告実務に適用可能かを論じるゼミ論を執筆します。

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

有り。

(3) 評価方法 / Evaluation

出席状況、ゼミにおけるパフォーマンス（参加姿勢、課題提出、口頭発表、グループワークなど）、および卒論（4 年次のみ）によって成績評価を行います。

3. 使用テキスト / Textbook(s)

全員に購入していただくテキストはありません。参考書はその都度紹介します。

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

ゼミの皆さんには、２年間にわたって広告の理論実証研究を学ぶための強い持続力、そして、同じ目標に向かって歩む同期生と協働しようとする高い協調性を望みます。

5. 選考方法 / Screening

面接によって選考します。面接に先立って、志望理由や自己 PR に関するエントリーシートを提出していただきます。

6. 演習入室までに学習してほしいこと/ What students should study before starting the Seminar

特にありません。入室前よりむしろ入室後の学習姿勢に期待します。

7. その他 / Others

08 岸 磨貴子 准教授

1. 演習のテーマ

教育工学（Educational Technology）/学習環境デザイン

岸ゼミでは、**学びのデザイン×ダイバーシティ×メディア** をキーワードとして、実践と研究を同時に行うアクションリサーチに取り組みます。教育工学は「問題解決の学」です。ゼミ生は興味・関心、問題意識に基づいてプロジェクト（活動）を立ち上げ、実際に社会に働きかけながら得た知見を論文や映像、ウェブ、書籍などのメディアにまとめて発信します。そのプロセスで多様な ICT を道具として利用するためメディア活用やメディア表現力の力もつきます。ゼミ生の研究フィールドは多様で、学校教育、中野区、NPO/NGO（子どもの遊び支援、難民支援など）、地域連携（屋久島、真鶴等）、海外（特に途上国）などがあります。詳細は、ゼミのウェブページをご覧ください。

場のデザイン×ICT で 誰もが輝ける世界に：https://www.meiji.net/movie/movie003_makiko-kishi
岸ゼミウェブページ： http://m-kishi.com/seminar
岸ゼミのインスタグラム：https://www.instagram.com/kishiseminar.meiji/

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

＜3 年次 / 3rd Year＞ ３年ゼミ生は、４年ゼミ生とプロジェクトを組み、自分の興味関心を広げ、深めるための活動に参加したり、始めたりします。春学期の活動を通して研究/探究したいこと、挑戦したいこと出会い、企画し、秋学期に実践します。

＜4 年次 / 4th Year＞ 春学期では、学習環境デザインについての理論に関して文献輪読を通して深めます。秋学期は、自分の研究テーマをもとに研究成果を定期的に発表し、卒業研究発表会に向けて論文執筆またはメディア制作に取り組みます。

※詳細は岸ゼミのウェブ→abt 岸ゼミ→「ゼミのゴール」をご確認ください。
※卒業制作については、岸ゼミのウェブ→「プロジェクト」「卒業研究」から ご覧いただけます。

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

ゼミ生は、卒業制作を行います。具体的には、ドキュメンタリー、ミュージカル、絵本、 映像、ウェブ、冊子など制作、ワークショップの実施、教材の開発、卒業論文）に「個人」または「グループ」取り組みます。（詳細は岸ゼミウェブページにて確認できます）

(3) 評価方法 / Evaluation

※詳細は岸ゼミのウェブ→abt 岸ゼミ→「ゼミのゴール」に、目的、方法、評価を明記

3. 使用テキスト / Textbook(s)

ゼミのインスタグラムで確認してください。

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

・ゼミ活動に取り組む時間を確保し、２年間、最後まで取り組める人
・プレイフルに、協働的に、自分のやりたいことに一生懸命に取り組める人を歓迎します。

5. 選考方法 / Screening

志望動機書または面接によって選考します。

6. 演習入室までに学習してほしいこと/ What students should study before starting the Seminar

ゼミのウェブを事前に確認し、ゼミの内容や方法をしっかり確認してください。

7. その他 / Others

ゼミ入室後でも構いませんので、インターネットと社会、メディアリテラシー A、共生と学びのデザイン論、教職課程の学生は教育の方法と技術を受講してください。

09 クエク, マーリJ.N.H. QUEK Mary 特任准教授 Associate Prof.

1. 演習のテーマ/ Theme

"Project based learning in the hospitality and travel industries."

Japan tourism development has experienced an exponential growth in the past years. This course is designed to provide students with an insight into and understanding of the nature of hospitality and travel businesses. Students will be working in small task groups to fulfil a remit in consultation with a hospitality or travel organization, and design and conduct appropriate research to complete their task. The course enables students to apply knowledge acquired and develop further the skills of research, team working, time management, communication and decision-making.

2. 授業内容/ About the course

(1) 授業の進め方/ How the course is conducted

＜3 年次 / 3rd Year＞:

This course will be conducted in English language. The weekly activities enable students to gain first-hand experience in data collection and analysis, and enhance their critical thinking and writing skills. Depending on how the COVID-19 situation evolves, students will have the opportunities to refine their interactive skills by meeting people from all walks of life.

＜4 年次 / 4th Year＞:

Students have the option of extending their project from the previous year, or start a new one. The extended project must relate to academic debates that are relevant to the topic under discussion.

(2) ゼミ論の有無/ Thesis: Not required.

(3) 評価方法/ Evaluation

＜3 年次 / 3rd Year＞

Attendance and participation 50%; Report 50%

＜4 年次 / 4th Year＞

Attendance and participation 50%; Report 50%

3. 使用テキスト/ Textbook(s)

Reading materials will be distributed weekly.

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

1) The seminar sessions will be in English. Students should have adequate English language skills to do well in this course.
2) Applicants need to be interested in the hospitality and travel businesses.
3) Students are expected to participate actively in all activities and embrace teamwork.
4) Students are required to attend seminar sessions regularly and be punctual for class.
5) Any student who is absent twice or more times, except for absences that fall under documented emergencies, will receive a failed grade.

5. 選考方法 / Screening

- A short essay and an interview.
- Students will submit a short essay in English describing their interest in this seminar via email to the tutor, two days before the interview.

Essay specifics: Arial font; Font size 12, 1.5 spacing, 200 words (+/-10%).

6. 演習入室までに学習してほしいこと / What students should study before starting the Seminar

None.

7. その他/ Others

- Seminar events and additional information will be announced in class
- This syllabus/schedule may change depending on participant numbers and the project commissioned by industry practitioner.
- The seminar may offer excursions to experience fieldwork.
- Students will incur small out-of-pocket expenses.

10 琴 仙姫 Soni Kum 特任講師 Assistant Prof.

1. 演習のテーマ/ Theme

Contemporary Art / Film and New Media / Curatorial Practices / Performance

This seminar is designed for students who are interested in contemporary art, film and new media, curatorial practices, performing arts, music, dance, and literature. The participants will expand their understanding of contemporary art through both practical and theoretical study processes. These cultural spheres have been in close dialogue with recent global phenomena, such as migration, global inequality, economic disparity, the environmental crisis, the global pandemic, post-colonialism, war, religious conflicts, and racism. Along with learning various art theories and practices from around the globe, the students are encouraged to produce their own artworks or research-based projects.
This seminar encourages students to see cultures and "the world" in a more expansive and dynamic manner. It provides students with an introductory ground to think beyond existing limited cultural conditions and perspectives. It will enable them to form their own research methods and themes through the approach of transculturality. Students interested in philosophy, sociology, psychoanalysis, and critical studies are also welcome. We are going to perform an in-depth examination of society through reading critical theories. Various texts from humanities and social science, as well as visual examples of artworks, will be presented in each class.

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

＜3 年次 / 3rd Year＞

At the beginning of this seminar, each student will be asked to choose their area of study or the research theme they would like to explore in-depth. They can choose any topic related to art or sociology.
Part of the course will comprise student presentations. Participants will give presentations on their research or artworks, followed by a Q&A session and an interactive discussion.
The students are encouraged to work both individually and in collaboration.
At the end of each year, we will facilitate a collaborative exhibition on campus.
The students will be divided into a curator/producer group and an artist group.
The curator/producer group will manage the event, while the artist group will focus on creating, exhibiting, and performing at the event. The artwork can take the form of either visual artworks to be exhibited in the exhibition space or music, dance, or theater performances in a theatrical setting.
By producing an actual art event on campus, the students will learn valuable event management and production skills through a collaborative effort.

＜4 年次 / 4th Year＞

Same as above.

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

Yes, there will be a thesis. It can take a form of a thesis paper, artwork, performance or presentation.

(3) 評価方法 / Evaluation

＜３年次 / 3rd Year＞

3rd Year: Class participation (30%), Presentation in class (30%), Final presentation (40%)

＜４年次 / 4th Year＞

4th Year: Class participation (30%), Presentation in class (30%), Final presentation (40%)

3. 使用テキスト / Textbook(s)

To be announced during the seminar.

4. 応募学生に望むこと / What is expected of students who apply

The students are encouraged to be proactive and work towards what they want to pursue or explore in this course.

5. 選考方法 / Screening

Please send a short essay via email, introducing yourself and explaining why you are interested in participating in this seminar, at least 3 days in advance of the scheduled interview date.

6. 演習入室までに学習してほしいこと/ What students should study before starting the seminar

Participants are encouraged to have taken a Media Arts course, but it is not mandatory.

7. その他 / Others

We will take periodical field trips to art spaces in or around Tokyo, and we may have some guest speakers on related topics.

The class will be mainly conducted in English, but supplementary Japanese language material will be provided.
If you have an interest in the arts, please do not hesitate to join despite the language barrier. The instructor will assist the students as much as possible.

11 小谷 瑛輔 准教授

---

1. 演習のテーマ / Theme

近現代日本のコンテンツ・メディア・物語

このゼミでは、近現代日本の出版物に発表された物語性を持つテクスト、批評的テクストや、それらを掲載するメディア、関連する文化事象などを対象として、各自が関心のあるアプローチ（テクスト分析、メディア史/ジャーナリズム史/出版研究、メディア表象研究、カルチュラル・スタディーズ、文化史、文化社会学、アダプテーション、批評史……etc.）から研究していきます。教員の専門は文学研究ですが、このゼミでは文学研究の多様な研究手法を応用して、多様なジャンルのテクストを扱うことができます。テクストだけでなく、その背景にあるコンテクストやメディアを総合的に分析する力を養いつつ、相互の関心や知識から学び合います。

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

＜3 年次 / 3rd Year＞

扱うテクストを選ぶ担当者を１回ごとに決め、その人が決めたテクストについて、読んできた参加者全員でディスカッションする、という形が基本となります。ゼミ論の執筆を目指す人は、調査や研究の成果を発表して、その研究内容についてみんなで検討していきます。教員が講義するのを聞く時間よりも、みんなで読むテクストをゼミ生が選び、ゼミ生が司会し、ゼミ生同士でディスカッションするのが中心です。また、ゼミ生の関心やアイデア次第で、学びの幅を広げるための多様なゼミ活動を取り入れていきます。

＜4 年次 / 4th Year＞

３年次よりもさらに幅を広げ、さらに掘り下げて、多様なテクストを扱っていきます。ゼミ論に取り組む人は、自身のテーマについての研究をゼミで発表して、ディスカッションを行い、教員の助言を受けながら、ゼミ論の完成を目指します。

近年のゼミ論例「テレビシナリオから小説への解体と生成」「新井素子「グリーン・レクイエム」の諸問題」「スライム表象の歴史から見る「転生したらスライムだった件」について」

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

目標があるとゼミのやり甲斐がアップしますのでゼミ論の執筆を推奨していますが、必須ではありません。様々な目標での参加が可能です。

(3) 評価方法 / Evaluation

＜３年次 / 3rd Year＞　平常点（50%）、発表（50%）

＜４年次 / 4th Year＞　平常点（50%）、発表またはゼミ論（50%）

3. 使用テキスト / Textbook(s)

基本的には、毎回、発表者が選んだテクストを参加者全員で読んできます。

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

活発にゼミにコミットする学生の応募を期待します。

5. 選考方法 / Screening

面接によって選考します。

6. 演習入室までに学習してほしいこと/ What students should study before starting the Seminar

自分が掘り下げて考えてみたいことを、色々な本を読みながら探っておきましょう。

7. その他 / Others

ゼミ行事は履修者の希望に応じて決めます。

12 小森 和子 教授

1. 演習のテーマ / Theme

【外国語としての日本語／日本語教育】

日本語では「薬を飲む」と言いますが，中国語では「吃（食べる）**药**」，英語では「take（とる）medicine」と言います。同じ＜薬を体内に入れる＞という動作でも，言語によって動詞が異なるのです。これがわかると，日本語学習者が「*昨日，薬を食べました」と誤用する理由や，英語の take は意味が広いということが，理解しやすくなります。この演習では，日本語学習者の視点から見た日本語の難しさや，日本語と他の言語の違いについて考えていきます。

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

＜3 年次 / 3rd Year＞

春学期は，日本語に特有の表現について，なぜ日本語ではそのように言うのか，考えます。それを基に，秋学期はテーマを設定し，実際に調査を行います。また，学期を通して，留学生の日本語クラスに参加して，日本語学習をサポートします。

＜4 年次 / 4th Year＞

春学期は，卒業研究を組み立てるための準備として，先輩の卒業論文やその他の論文を読みます。秋学期は，各自の卒業研究に取り組みます。また，3 年次と同様に，留学生の日本語クラスに参加して，日本語学習をサポートします。

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

あります。

(3) 評価方法 / Evaluation

出席と議論への参加 (20%)，発表 (30%)，レポート (3 年次)・論文 (4 年次) (50%) によって，総合的に評価をします。

3. 使用テキスト / Textbook(s)

受講生のみなさんの希望を聞いて，決めていきます。

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

日本語学習者や日本語が母語でない人と関わることが好きな人，大歓迎です。

5. 選考方法 / Screening

面接によって選考します。面接の際には，応募理由，これまでの言語系科目の履修状況，日本語教育学に関する基礎知識の有無などを確認します。

6. 演習入室までに学習してほしいこと/ What students should study before starting the Seminar

「日本語教育学（語彙)」を履修しておいてください。

7. その他 / Others

特になし

13 佐藤 郁 専任講師

1. 演習のテーマ

インバウンドツーリズム、観光による地域活性化

本演習の目的は、身近な観光という現象を通じて、世界の中の日本、日本から見た世界を知ること、そして観光の本質である「地域との関わり」への理解を深めることです。本ゼミでは学生が主体となり、地域や企業と連携した PBL(Project-Based Learning)型の学びを通じて、チームワーク、企画力、交渉力、プレゼン力（「想い」を伝える力）の習得を目指します。同時に、フィールドワークやグループワークを通じて、様々な立場や範囲から物事を多角的にとらえる視点を養います。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

＜3年次＞

- 前半は、観光に関わる企業や行政機関と連携し、観光の地域での役割やターゲットに合わせた観光情報の発信の仕方について学びます。さらに、４～５名のグループ単位でフィールドワークを実施し、中野区の観光資源を発掘して、その魅力を観光情報サイトで発信してもらいます。
- 後半からは、課題解決型のプロジェクト学習が中心となります。提示された課題に基づき、中野区で訪日外国人観光客を対象にしたプロジェクトの企画・立案をグループに分かれて行います。最後に、観光に関わる企業や行政機関の方々に向けてコンペ形式のプレゼンテーション大会を実施します。

＜4年次＞

観光に関するテーマを各自で設定し、最後にゼミ論をまとめる。全体で構想発表、中間発表および最終発表会を実施します。

(2) ゼミ論の有無

有

(3) 評価方法

３年次：平常点(40%)、グループワーク・発表(60%)によって総合的に評価する。
４年次：平常点(40%)、論文・発表(60%)によって総合的に評価する。

3. 使用テキスト

特に指定しない。その都度必要なものを配布する。

4. 応募学生に望むこと

地理の基礎的な知識があることが望ましい。（３年次は特に）グループワークによるプロジェクト型学習が中心となるので、フットワークが軽く、チームでの作業に積極的に取り組める方を希望します。共創型ディスカッションを通じて、ゼロから新たなアイディアや価値をつくるプロセス、未来志向のビジネスや地域活性化に興味のある方を歓迎します。

また、授業時間外にチームで主体的に活動することも多くなりますので、それを前提に履修するようにしてください。授業時間外で地域視察などを行う場合もあります。その他、希望により授業時間外に複数の任意参加のプロジェクトを設定することがあります。何事にも積極的に参加できる方を希望します。

5. 選考方法

小論文、志望動機書、自己紹介書，自己 PR 動画、の 4 点による選考を行う。2 年次春学期までの成績も参考にする。場合によって追加で面接を実施することがある。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

「ツーリズム・マネジメントＡＢ」を履修しておくことが望ましい。観光や地域活性化に関わるニュースメディアや書籍に興味をもち、常にアンテナを張っておいてください。

7. その他

連携機関の都合や受講生の要望・理解度により、内容を変更する場合があります。

14 鈴木 賢志 教授

1. 演習のテーマ / Theme

「日本とスウェーデンの社会から学ぶ」本演習は、日本とスウェーデンの社会に焦点を当てた「国際日本学」の実践を目的とする。すなわち、スウェーデンの社会について学び、それを日本に発信するとともに、日本の社会と比較し、共通点や相違点を明らかにする。さらに、スウェーデンを手本あるいは反面教師として、日本が得られる教訓や課題について考察する。

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

＜3 年次 / 3rd Year＞

春学期は、スウェーデンの公式サイト Sweden. se から自分の興味に沿ったトピックを選び、その邦訳をベースとした発表を通じて、スウェーデンの様々な側面に関する理解を深める。秋学期は、スウェーデンの小学校社会科の教科書の輪読と、それに基づく議論を通じてスウェーデン社会に対する理解を深める。またテーマごとにいくつかのグループに分かれて研究テーマを設定し、文献精査や関係者へのインタビューを行う。

＜4 年次 / 4th Year＞

春学期は、統計データを用いて日本とスウェーデンを比較する手法の習得や、スウェーデンに関する文献の輪読を行いつつ、卒業発表に向けた研究テーマと研究枠組みをグループで検討する。秋学期は、卒業発表に向けて研究を仕上げ、最終的に一般社団法人スウェーデン社会研究所が主催する研究講座にて一般向けに発表会を実施する。

なお、スウェーデンを含め世界を見据える上で、日本社会の現状をきちんと理解しておく必要があるので、適宜日本の社会状況についての議論も取り入れてゆく予定である。

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

上記の卒業発表は、ゼミ論として論文の形式を取っても、プレゼンテーション中心の形式でも構わない。

(3) 評価方法 / Evaluation

各期の発表、レポート、および授業への取り組みを考慮に入れて評価する。

3. 使用テキスト / Textbook(s)

特に指定しない。

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

ゼミの活動は、スウェーデン大使館等のイベント参加や国内外での研修（参加は任意）など様々な広がりをもって行うので、何事にも積極的に取り組む方の参加が望ましい。

5. 選考方法 / Screening

小論文(応募理由)の評価を中心に、２年次春学期までの成績を参考にしつつ選考する。

6. 演習入室までに学習してほしいこと/ What students should study before starting the Seminar

特に求めないが、説明会には参加していただきたい。

7. その他 / Others

15 瀬川 裕司 教授

【2024 年度の前期に、教員が「在外研究」のために日本にいない可能性があります。その場合、下にも書くように、2024 年度後期に週2コマの授業をおこないますので、ご注意ください】

1. 演習のテーマ

高度な批評能力を身につける

本を読んだあと、あるいは映画を観たあとに、「面白かった」「つまらなかった」といったカタコトの〈感想〉ではなく、自分の意見を論理的に展開できる大学生は少ない。〈コメント力〉あるいは〈批評力〉は社会人になってからも重要なものだが、わが国の学校教育では、この能力の養成は軽視されてきた。このゼミでは、小説、演劇、映画、絵画、音楽などあらゆる対象に的確な言葉で批評をおこなえる能力を養うことを目標とする。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

＜3 年次＞ 毎回の授業に対してひとつの映画作品、小説などを指定する。参加者は、授業日までにその作品に接し、資料を見るなどして批評文を用意する。授業時には、参加者はたがいの批評を比較して意見を交換し、分析能力の向上をめざす。参加者の希望に応じて、演劇や音楽なども考察の対象とする。映画がテーマとなる場合は、テーマを決めて何本かの作品を続けて研究したい。

＜4 年次＞ 【前期に教員が日本にいないことになった場合は、後期に「演習 A」「演習 B」の両方を開講し、同じ曜日の3限・4限に続けて授業をおこないます】

各参加者が、中心に据えて研究したい映画作家・小説家・ジャンル・アーティスト等のテーマを決めてゼミに臨む。授業では、ひとりが自身のテーマに関して発表をおこなったのち、全員で意見を交換する。必要な場合、授業時間中に関連作品をＤＶＤ等で鑑賞する。最終的に、それまでの発表をまとめるかたちで年度末にゼミ論が提出されることが望ましい。

(2) ゼミ論の有無

参加者は原則として学年末にゼミ論を提出してほしいが、ゼミ論執筆を希望しない場合 はレポート提出、口頭発表等で代用できる。

(3) 評価方法

＜3年次＞ 毎回授業時の批評文および発表で評価する。

＜4年次＞ 毎回授業時の批評文および発表で評価する。

3. 使用テキスト 授業時に指示する。

4. 応募学生に望むこと

映画や文学、演劇など国内外の文化全般に関心があり、積極的に適格な意見を述べられるようになりたいと考える学生が望ましい。

5. 選考方法 希望者は全員入室を認める（アンケートなどを実施する場合もある）。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

蓮實重彦（はすみ・しげひこ）の映画関係の著作を演習開始前に２冊程度読んでおくことが望ましい。

7. その他

16 田中　絵麻　教授

1. 演習のテーマ / Theme コンテンツ産業論･ICT 政策論

日本が抱える様々な課題に取り組んでいくに当たり、情報通信技術（Information and Communications Technology: ICT）の活用が期待されています。ただし、ICT の利活用においては、技術開発のみならず、企業の活動、社会的受容やその発展をささえる制度が不可欠です。本演習では、AI 技術の導入も視野に入れつつ、ICT 技術とプラットフォームがどのように社会を変化させているのかを、主にメディア産業やコンテンツ産業を対象として、日本と諸外国の比較の視点からアプローチし、公益に資する ICT の活用とはなにか、また、ICT 産業にかかる政策のあり方を考えることをテーマとしています。一次資料に基づく制度比較のリサーチ手法やデータ分析手法の習得を目指します。2022 年度のテーマとして、デジタル・ウェルビーイングを検討していますが、各人の関心テーマを重視します。

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

＜3 年次 / 3rd Year＞

・テキストの輪読・報告とディスカッション。各人の関心テーマを設定・調査・報告。

・進め方やテキスト、各回の予定はシラバスを参照してください。

・個別テーマでの調査・分析を行い、ゼミ論（6000 字-1 万字）を作成・発表。

※情報通信学会・次世代ネット政策研究会・大学合同ゼミでの発表となる場合もあります。

＜4 年次 / 4th Year＞

・主体的なテーマ設定のもと応用的なテキストの輪読と卒論（2 万字程度）指導を行います。

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

・有

(3) 評価方法 / Evaluation

＜３年次＞ゼミへの参加度（30%）、グループワーク（35%）、個別報告（35%）

＜４年次＞ゼミへの参加度（30%）、卒論（70%）

3. 使用テキスト / Textbook(s)

『エマニュエル・トッドの思考地図』、『DX の教養 デジタル時代に求められる実践的知識』、『わたしたちのウェルビーイングをつくりあうために　その思想、実践、技術』等からゼミ生の関心に応じて選定します。

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

・好奇心と行動力を持ちつつ、社会に貢献する意欲のあること。

・ICT、メディア、コンテンツ、ICT 領域に関心があること。

5. 選考方法 / Screening

・ゼミ志望動機にかかるレポート（メールにて提出）と面接（ZOOM）。

6. 演習入室までに学習してほしいこと/ What students should study before starting the Seminar

・演習担当教員の学部科目（メディアリテラシー、テクノロジーと日本）に関心があるか、履修していること。

・コンテンツ産業論（3 年次から登録可能）に関心がある場合には入室後の履修も推奨。

7. その他 / Others

・リサーチ、アウトプット、フィールドを重視しています。これまでのゼミ生は『国際日本学学生論文集』への投稿や合同ゼミの発表、英語でのプレゼンなどにチャレンジしています。また、卒論やゼミ論、合同ゼミにかかる合宿も実施しています。

17　田中　牧郎 教授

1. 演習のテーマ

文化と社会から見た日本語論

2. 授業内容

（1）授業の進め方

＜3 年次＞

日本語を研究するための「日本語学」の方法を身につけ、日本の文化や社会の中での言葉の実態を観察し、日本語について議論していきます。例えば次のような研究を行います。

研究方法：メディアや言語作品の言葉の分析、フィールドワークによる言葉の収集、古典資料や対訳資料の調査、言語コーパスの作成と活用

文化から見た日本語論：言葉で特徴付けられるキャラ、小説の読みやすさの決まり方、古典芸能から大衆芸能への言葉の変化、翻訳に見る日英の言語比較

社会から見た日本語論：言葉の性差のゆくえ、言葉遣いは政治家の印象をどう変えるか、外来語は言い換えられるか、コロナが変えた日本語、母語教育の日本語

＜4 年次＞

3 年生との共同研究で、文化や社会からみた日本語論を深めるとともに、各自のテーマに基づくゼミ論に取り組んでいきます。最近のゼミ論のテーマ例を示します。

文学作品における感情を表すオノマトペ、近代翻訳小説における無情物主語の翻訳、ソーシャルゲームのキャラクター言語、古今和歌集から見る和歌翻訳、日英訳文から見る両言語の認知の違い、外国人材受け入れに関する社説を対象とした批判的談話研究、ミステリー小説における叙述トリックの表現、歌謡に見る七五調の変遷

（2）ゼミ論の有無

有り（テーマや分量は、相談によって決定します）

（3）評価方法

＜３年次＞　平常点（60%）、レポート（40%）。

＜４年次＞　平常点（50%）、ゼミ論（50%）。

3. 使用テキスト

使用しません。

4. 応募学生に望むこと

言葉の分析や言葉の談議を楽しむこと。

5. 選考方法

面接によります。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

できれば日本語学 A・B を履修してください。入室後に履修しても構いません。

7. その他

国際日本学研究科の大学院生や文学部の国語学ゼミとの共同活動を行うことがあります。ゼミ合宿や古典芸能鑑賞などにも出かけます。

18 戸田　裕美子　Toda, Yumiko　准教授

1. 演習のテーマ / Theme

日本的流通システム

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

＜3 年次 / 3rd Year＞

①日本的流通システムを主題としたテキストの輪読と質疑応答
②特定の研究テーマについて、研究プロジェクトを実施
③卒業論文執筆の前哨戦として、12,000 文字程度の小論文を執筆
④4 年生の卒論発表に出席し、質疑応答に参加

＜4 年次 / 4th Year＞

①卒業論文の中間発表と質疑応答
②卒業論文の執筆

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

3 年次 12,000 文字程度の小論文、4 年次 20,000 字程度の卒業論文を執筆する

(3) 評価方法 / Evaluation

＜３年次 / 3rd Year＞　平常点（40%）、発表（30%）、小論文（30%）
＜４年次 / 4th Year＞　平常点（40%）、発表（30%）、卒業論文（30%）

3. 使用テキスト / Textbook(s)

使用テキストについては、初回のゼミで伝達をする。

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

論文の執筆は、要約力、批判力、構成力といった知の 3 大要素を効果的に育み、実社会でも大いに役立つ問題解決能力を最も有効に成長させる活動です。こうした考えのもと、本演習は、論文の執筆を中心的な活動に据え、その準備のために輪読や質疑応答、研究報告をプログラムします。論文の執筆を大学生活の集大成にしたいと考えている学生を歓迎します。

5. 選考方法 / Screening

エントリーシートの提出と面接（詳細は個別ガイダンスの際に指示します。）

6. 演習入室までに学習してほしいこと/ What students should study before starting the Seminar

特にありません。

7. その他 / Others

夏休みには 2 泊 3 日程度のゼミ合宿を行う予定です。また、秋口には担当者が前職で担当していたゼミの OBOG 会の開催も予定しています。

19 長尾 進 教授

1. 演習のテーマ

スポーツと現代社会

2020夏季オリンピック・パラリンピック東京大会は2021年に延期され、国民世論が2分するなかで開催されました。なぜこの時期にあえて開催されたのか。その根本原因は、1980年代以降のオリンピックの過度なビジネス化にあります。コロナ禍にあって日本や東京がこの五輪とどう向き合ったのか。レガシーを遺せたのか。五輪の今後のあり方を考えることは、ゼミとしての大きなテーマです。また、多くのスポーツにおけるビデオ判定方式の導入、eスポーツ、スポーツとジェンダーの関係、スポーツ選手の政治的意思表明など、スポーツの在り方そのものが変わりつつあります。そうした時代の変化とスポーツとの関係性について議論を深めることも、ゼミの特徴です。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

学期前半は、長尾からその時々のスポーツをめぐるトピックを提供します。それをもとに討議し、理解を深めます。中盤は、各自何か一つのテーマを掘り下げ、資料を集めて分析し、プレゼンテーションをしてもらい、討議をします。学期末には、それらをレポートとしてまとめます。3年次・4 年次とも基本的な進め方は、上記の通りです。

(2) ゼミ論の有無

国際日本学部は留学する人も多いので、いわゆる卒論というスタイルはとりません。各学期末において、期末レポートを提出してもらいます。その時々のテーマによる学期完結型のレポートでもかまいませんし、4学期継続したテーマでもいいです。

(3) 評価方法

平常点（討議への関心度、意欲）40%、プレゼンテーション（資料収集・取材意欲を含む）30%、期末レポート30%

3. 使用テキスト

テーマに関わりのある資料や書籍、ＵＲＬなどを、そのつど紹介します。

4. 応募学生に望むこと

プレゼンにしても、レポートにしても、「現場」での取材や一次資料が大きな説得力をもちます。スポーツ場面への実際の取材（アンケート、インタヴューほか）など、アクティブな姿勢を望みます。

5. 選考方法

募集定員をめどに，選考します。関心のあるスポーツ関連のテーマと、そのテーマを選んだ理由、および研究計画を記述する欄を含む、エントリーシートを書いてもらいます。基本的には、そのエントリーシートと面接（Zoom）をもとに選考します。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

オリンピック・パラリンピックについては、インターネット等を通じて記事や動画に接することができます。これらに日ごろから関心をもって接していてください。

7. その他

冬季または春季休暇中にゼミ旅行合宿（１泊２日程度）を行います。研修先は皆さんと話し合って選定します

20 萩原　健　Ken Hagiwara 教授 Prof.

※2024 年度は開講されません。2023 年度の 1 年間に限った募集となります。
【Notice1】This seminar will not be offered in FY2024, but only for one year in FY2023. Applications will be accepted only for the academic year 2023.
【Notice2】Basically, this seminar will be held in Japanese, but English is highly welcome. You can find the seminar description in English via the following link:
https://drive.google.com/file/d/1buA6TgQ-C4lX8tHdxtc0vgJw0z5EyMqK/view?usp=sharing

1. 演習のテーマ / Theme

"Performances" in Daily Life and Arts Scenes（日常生活と芸術シーンでの〈パフォーマンス〉）

〈パフォーマンス〉と呼びうる現象なら、何でも研究テーマにできます。日常の身振りや立ち居振る舞い、言葉遣いといったパフォーマンス、あるいは、伝統芸能や現代演劇といった舞台芸術を始め、芸術全般でのパフォーマンスを、ご自分の関心に即して追究できます。

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

ご自分の関心に即して、主張を明らかにし、論文を作成します。授業時間での活動は、論文作成作業の進捗報告と、他のメンバーとの意見交換です(この意見交換で視野を広げていきます)。

＜3 年次 / 3rd Year＞

【春学期】ご自分の関心を引く計 10 点の情報源(書籍、論文等)を集めます。10 点それぞれについて、概要と、ご自分の論文で使いたい部分(＝引用)を一覧にし、これに、結論となる仮の主張を付して、学期末に提出します。【秋学期】論文の構成を考えます。目次を作り、各章および各節での概要を記します。概要入り目次の完成後、本文の執筆を始め、学期末に論文を提出します。

＜4 年次 / 4th Year＞

論文を拡充させます。さらに 10 点の情報源、およびそれらからの引用を加え、主張、目次、本文に手を入れます。研究テーマを変更する場合、計 20 点の情報源を集め直すことから始めます。

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

あり（3 年次は日本語 1 万字以上または英語 5 千語以上。4 年次はその倍）

(3) 評価方法 / Evaluation

＜３年次 / 3rd Year＞各時間での進捗報告(30%)、発言(30%)、学期末提出課題(論文)(40%)
＜４年次 / 4th Year＞春学期は同上、秋学期はそれぞれ 20%、20%、60%。

3. 使用テキスト / Textbook(s)

各メンバーの関心に即して、情報源について案内します。

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

積極的な参加、また個々の作業を継続的に進めてくださることを強く期待します。

5. 選考方法 / Screening

作文と面接。作文は日本語 1000 字または英語 500 語で、面接の前々日までに hagi@meiji.ac.jp へ提出。内容は次の３点をできるかぎり一貫させたもの：「パフォーマンスという概念」「現在の関心」「大学を離れたあとにしたいこと」

6. 演習入室までに学習してほしいこと/ What students should study before starting the Seminar

〈パフォーマンス〉（ご自分の理解で OK）に関わる、ご自分の関心を引く書籍を最低３点、読んでください。１点を読み終えるたび、「著者」「書名」「刊行年」「要旨」「自分の意見」を hagi@meiji.ac.jp へ伝えてください（＝ひと月に 1 冊のペースで十分こなせます)。

7. その他 / Others

課外活動についてはメンバー全員の話し合いで決めます。

21 廣森 友人 教授

1. 演習のテーマ

外国語学習の科学：理論・研究・実践

本演習の目的は，「第二言語習得研究」（Second Language Acquisition [SLA] Research）に基づいて，効果的な外国語（英語）学習法の理論を学び，自分たちで調査・実験を含めた研究を行い，得られた知見を自ら実践できるようになることです。外国語を学ぶやる気とスキル（will and skill）を高める方法を身につけることで，学習成果の最大化を目指しましょう。

2. 授業内容

（1）授業の進め方

＜3年次＞

演習を進める上での基礎となる 3 つの力（①英語力，②研究力，③プレゼン力）を強化します。第二言語習得に関する英語文献の読解や英語でのプレゼンを行ったり，ゼミ全体で興味・関心のあるトピックについて共同研究を行います。

＜4年次＞

3 年次に学んだことを踏まえ，グループ単位（希望によっては個人単位）で興味・関心のあるトピックについてゼミ論（卒論）を執筆します。授業では，定期的に各グループの進捗状況を報告しあい，他のゼミ生や教員，院生からのフィードバックを受けます。

（2）ゼミ論の有無

有り

（3）評価方法

出席・議論への参加状況（20%），発表（30%），レポート（50%）

3. 使用テキスト

履修者の興味・関心を踏まえて決定します。

4. 応募学生に望むこと

・研究室のウェブサイト（https://hiromori-lab.com/）を事前に確認し，自分の関心と合致するかどうかを十分に見極めた上で応募してください。
・私の専門はやる気（動機づけ）です。やる気は伝染します。やる気に満ちたゼミ生を歓迎・応援します。

5. 選考方法

小論文（テーマは「このゼミを希望する理由，このゼミで勉強したいこと」）と面接。入室試験では，志望動機に基づいた面接を行います。詳細は，個別ガイダンスの際に指示します。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

演習担当教員の学部科目「心理と言語 A・B」を履修しておいてほしい（あるいは，ゼミと同時に履修してほしい）と考えています。

7. その他

夏期休業中にはゼミ合宿を行います。その他，学生の自主性と教員の思いつきによって各種行事・イベント（例: BBQ, 紅葉を愛でる会，ゼミ研究発表会，OB・OG・現役生合同交流会）を行います。

22 眞嶋 亜有 講師

---

1. 演習のテーマ 学際的日本研究～ゼミで Global Japanese Studies を極めてみる～

「国際日本」とはなにか：「グローバル人材」、「国際日本」とは一体何でしょうか。学問の玉手箱のような「国際日本学部」に入学された国日生のなかには、合格した直後から**「国際日本学部ってなに？」**と周囲から聞かれるお決まりの質問への「正解答」探しの旅が始まる方もいるかもしれません。1 年は必修に追われ、2 年はさまざまな領域の履修に追われ、気づくともう 3 年生、あっという間に就活先で**「国際日本学部で何を学びましたか？」**と聞かれる時期に入ります。自分の学びたいように履修ができる魅力的な学部でありながら、気づくと、果たして**自分の専門性とは何なのか、これまで自分は何を学んできたのか**、と**「国日不安」**とも言えるような心境を抱く方もおられるかもしれません。さらに、国際日本学部って、「国際なの？日本なの？どっち？」と自問する方もおられるかもしれません。

「きのこの山」が語るもの：私は新入生には**「国際日本」は「きのこの山」**だとお伝えしています。チョコとビスケットがくっついているきのこの山が「自分はチョコなのか、ビスケットなのか、どっちなのか」と自問するとしたら皆さんはどう考えますか。そんな「きのこの山」から見ると、就活のグループ面接で、経済学部出身という同期が、まるで「明治のチョコレート」のように、「いいなあ、あの人はどこから見ても正真正銘のチョコレートだ」と映るかもしれません。また、国際教養学部出身と耳にするとあたかも「マリーのビスケット」であるかの如く、「いいなあ、あの人は誰がみても正真正銘のビスケットだ」と思うかもしれません。しかし「きのこの山」は、「チョコとビスケット」があってこそ「きのこの山」なのです。つまり、**日本を知ることは世界を知ることであり、世界を知ることは日本を知ること**であり、その両者は決して分かつことができません。それがグローバル社会の本質であり、となれば２１世紀の時代を生きる私たちには、その**グローバル社会を生き抜くための知性と教養**が求められていると言えるのではないでしょうか。

だからこそ「ゼミで Global Japanese Studies を極めてみる」

そこで**学際的日本研究**を専門とする本ゼミでは、**「ゼミで Global Japanese Studies を極めてみる」**を基本コンセプトに、**グローバル社会を生き抜くための知性と教養**としての、**「世界のなかの日本」を捉える多角的視座の構築**を、以下の**三本柱**を持って目指します。

① **多角的視点から見えてくる日本と世界**を、**ジャパン・オリジナルの如く、自分・オリジナルな視点から考察**する試みを持っています。そもそも**「日本研究」**とは**学際性**を持って成立するジャンルですが、主に**歴史学・社会学・文化人類学・心理学・ジェンダー**といった学問領域を**複合的に横断**することを学際的アプローチとしています。**グローバルな視座から「日本とは何か」を問う**具体的なトピックは、私たちの**日常生活の至るところ**に溢れています。近現代日本とグローバリズムの諸問題、家族や人間関係、ジェンダーやアイデンティティ、思考行動パターン、生活文化、心性、日本文化の世界発信や異文化受容のビジネスモデル、また個性や多様性をめぐる諸相など、**身近な切り口**から、比較考察を通じて多角的に分析します。比較対象としては、近現代日本にとって最も重要な他者であり続けた**米国との比較考察**が基軸としながらも、米国に限らず様々な国や文化圏との多角的比較ができるような視座の構築を目指します。個と多様性が益々重視されていく現代、また超少子高齢化を迎え**様々な挑戦**が日本に求められているなか、国籍・人種・性差を問わず互いの感性を尊重しながら、私達が**日本や世界に貢献しうる可能性**とは何か、そしてその**豊かさとは如何なるものか**を共に学び、考えていきましょう。

② **自己発信力と対話力：プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力の強化**を行います。ガイダンス動画でも説明していますように、これまでゼミでは中野キャンパスホール、駿河台キャンパス・グローバルホールはじめ、さまざまな会場でプレゼン機会を設けてきました。プレゼン能力とコミュニケーション能力は学問や就活に必要なスキルだけではなく、日頃の対話力をも向上することにつながります。自己発信力と対話力を磨くことで、自己理解を深め、

同時に他者理解をも深めることができます。なぜなら、日本を知ることは世界を知ること、世界を知ることは日本を知ることであるように、自己理解は他者理解であり、その両者も分かつことはできないからです。

③ **国内外で活躍する多彩なゲストとの交流：**本ゼミではこれまで様々なゲストをお招きしてきました。様々な分野で活躍されるゲストから生き方やキャリアのお話を伺うことは、**生き方の多様性、キャリアの多様性**を知ることにつながるだけではなく、多角的視点から「自分とは何か」「生きるとは何か」「幸せとは何か」「豊かさとは何か」を学ぶ機会にもなります。今後どの程度企画開催可能かは状況に応じ判断していきますが、もともと本ゼミでは様々な交流イベントを開催してきましたので（ガイダンス動画参照）、希望があればできる範囲で計画しましょう。※教員の在外研究がコロナ禍で延期続きでしたので 2022 年度に数年ぶりのゼミ再開となりました。

※2023 年度の留意事項：2022 年 11 月現在、教員は 2023 年度在外研究の予定ではありますがコロナ禍等の状況によって変更される等の場合もあります。在外研究の有無に限らず 2023 年度はゼミ単位が取得できる形でゼミを開催することを想定しております。詳細はゼミガイダンス動画で説明しておりますのでゼミガイダンス動画は必ず最後まで閲覧下さい。

2. 授業内容

（1）授業の進め方

＜3 年次＞関連文献講読やフィールドトリップ、交流イベント、また各自の関心に基づく発表と議論を重ねることで、多角的な思考能力とプレゼン能力、対話力を鍛えます。

＜4 年次＞上記の学びと並行して卒業後にも活かしていける知性と教養を養います。

（2）ゼミ論の有無　希望者のみですが各学期研究発表と議論は全員が行います。卒論を執筆しない学生は学期末エッセイや、同等の卒業制作などを行う予定です（詳細は相談）

（3）評価方法

＜３年次＞　出席（30%）、議論含むゼミ貢献度（30%）、発表と学期末エッセイ（40%）

＜４年次＞　出席（30%就活に応じ相談）、議論含むゼミ貢献度（30%）、同上（40%）

3. 使用テキスト　必要に応じてその都度お知らせします。

4. 応募学生に望むこと：　私たちは様々な人々との交流や対話を通じて、自分と社会と世界を知る機会を得ています。よって**知的好奇心**に溢れ、人の意見とその**多様性を尊重**したうえで、自分の意見を共有し、**主体性**をもって皆と**学び合う意志**のある学生を希望します。さらに本ゼミでは、他大学の方々や国内外で活躍するゲストをお招きするほか、各種ゼミイベントも予定しますので、**礼節と協調性をもって人と接する**ことができる学生を望みます。

5. 選考方法　作文等と成績と面接：入室希望者は個別ガイダンス（対面・留学中の学生はハイブリッド）には必ず出席下さい。※基本的に作文等は面接日から約 1 週間前提出を予定。

6. 演習入室までに学習してほしいこと　日々の生活で何気なく抱く問いや関心は**将来の重要な道標**になるので、その感性を大切に日頃から多くの良書を読んで下さい。また下記リンクにあるエッセイは必ず読んでおいてください（学部 HP の教員ページ内）。
http://www.kisc.meiji.ac.jp/~majima/170315ryoomoi.pdf

7. その他　教員の担当科目を履修しておくことが望ましいですが、未履修の方も含め、ゼミ活動内容や各種案内を投稿しているゼミ・インスタを参照下さい。なお、2022 年 11 月 19 日（土）GJS DAY でゼミ現役生と**座談会「国際日本学部って結局何？：“国日不安”とその処方箋としての学際的日本研究」**を開催予定ですので交流がてら是非いらして下さい。座談会後はゼミ現役生らとの交流会も予定されています。なお、合格発表以降交流会等を設けますので合格者は発表された時点で教員にメールをして下さい。

23 溝辺 泰雄 教授

1. 演習のテーマ:「地域研究(Area Studies): 旅と音楽、カフェ文化から世界を知る」

2023-24 年度の溝辺ゼミは、「旅」を通して「世界の音楽」と「カフェ文化」を学ぶ、をテーマに、世界と日本の文化理解を深めることを目指します。演習の参加者がアフリカを含む世界各地へそれぞれ個別に旅に出て、そこで触れた音楽を通して、文化や歴史、さらには政治や国際関係に関する諸問題を考えていきます。毎週のゼミの時間では、プレゼンテーションやディスカッションなどを通して互いに交換しあうだけでなく、学内/学外のイベントでの報告や旅行記の執筆・出版などを通して、広く一般の方々とも共有する機会も設けます。また、自分たちの経験だけでなく、これまでに世界中で出版されてきた「音楽」や「カフェ文化」に関するさまざまな出版物を読み、異文化を体験・理解することの面白さだけでなく、そこで生じる誤解や偏見などの問題点についても深く考えていく予定です。

2. 演習内容

(1)演習の進め方

2023 年度末の成果報告と 2024 年度末に予定している「旅」、「音楽」、「カフェ文化」をテーマにした雑誌の出版に向けて、年度の始めにテーマや日程を決め、それに向けて皆で役割分担をしながら活動を進めます。具体的な活動内容は下記でも紹介していますので、入室を検討されている方はぜひお読みください：https://bit.ly/3gmPvSr

また、これまでのゼミ生の活動は次のリンクからも確認できます：
https://www.instagram.com/meiji_africa_seminar/

【主な行事】
- 料理会(4 月と 12 月頃)：自分たちでテーマを決め、食と音で世界を旅します。
- 学外実習(6～7 月頃もしくは 12～1 月頃)：個別もしくは小グループ別に、異なるルートで最終目的地を目指す旅をおこない、最後に皆で集合してそれぞれの旅の経験を共有します。その上で、地産地消をテーマに、現地で食材を集めて料理を作ります(これまでの最終目的地は、京都、熊本、石垣島、瀬戸内しまなみ海道、鹿児島、佐渡島などでした)。
- 研究活動発表会(2 月)：自分たちで食と音をコーディネートしながら 1 年間の活動報告会をおこないます。
- ゼミ雑誌の作成と出版(4 月～2 月)：「旅」を通して得た学びを 1 冊の冊子にまとめます。

これまでの「喫茶部」の活動は下記のページで紹介しています：
[2019 年度] https://medium.com/club-de-caf%C3%A9
[2020～22 年度] https://note.com/afkencafe2020

(2)卒業研究

希望者のみ：芸術活動やボランティア活動など論文以外の形式での卒業研究でも構いません。これまでには、アフリカ滞在の旅行記・写真集の作成や創作衣装の制作と発表会、バンドを組んでのオリジナル楽曲の発表などの形式で卒業研究をおこなったメンバーもいます。卒業論文を執筆する場合は、通常の演習とは別に設ける**「論文ゼミ(アフリカ研究会)」**において、研究課題の設定から調査・研究、論文の作成まで時間をかけて丁寧に作業を進めていきます。過去の卒業研究のテーマについては次のリンクから確認できます：https://africakenkyukai.myportfolio.com/

(3)評価方法

演習活動への積極性に基づき評価します。

3. 使用テキスト

入室決定後にお伝えします。

4. 応募学生に望むこと

国内外への旅、世界の音楽やカフェ文化に強い関心を持ち、かつ、世界の諸文化に対する先入観にとらわれていない方々のご参加を歓迎します。ゼミ入室後も留学や休学をしての個人旅行などをおこなっていただいても全く構いません(むしろ推奨しています)。貴重な学生生活のなかでいろんな環境に身を置き、自らの世界観を拡げていただきたいと考えています。なお、これまでに 40 名を超える学生が、アフリカのさまざまな国々を訪れています。彼らの旅の一部は以下のサイトで紹介しています：

https://africakenkyukai.myportfolio.com/travels-1

5. 選考方法

書類審査と面接(対面もしくは Zoom)で選抜します。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

いろんなことに好奇心を持ち、気になったことは自分で調べたりやってみたりする気持ちを大切にしてながら日々の学びを楽しんでください。

24 美濃部 仁 教授

1. 演習のテーマ

哲学。（このゼミは、参加者がそれぞれ自分の関心にしたがい、あるいは自分の関心をさぐりつつ、自分をとりまく世界や自分自身の中に問題とすべきことを見出し、それをその根源にまで立ち戻って明らかにする――それが哲学ということですが――ということを中心におこなわれます。その準備として全員で一冊の本を読む、というようなこともしています。どのような問題にどのように取り組むかは各人の自由に任せられていますが、私がこれまで主に勉強してきたのは、哲学、宗教学、倫理学等ですので、専門家として助言ができる領域はそのあたりに限られています。）

2. 授業内容

（1）授業の進め方

この授業は、参加者の哲学的関心に沿う形で進めます。ですから、予め「進め方」を細かく決めてはいませんが、ほぼ次のようなことを考えています。

＜3 年次＞

春学期のゼミの進め方については、最初の回に皆で相談して決めます。皆で少し難しい本を一冊読むというやり方もありますし、毎回参加者全員が、その週に本を読むなどして気づいたこと、考えたことを発表し、それについて意見交換をするというやり方もあります。夏休みまでに、自分の勉強のテーマを見つけることを目指します。

秋学期には、自分の考えを組み立て、少しまとまった発表をする機会を設ける予定です。

＜4 年次＞

論文の構成を考えたり、細部について議論したりしながら、勉強の成果をまとめるような形で授業を進める予定です。

（2）ゼミ論の有無

有り。

（3）評価方法

＜3 年次＞　授業での発表・発言によって評価します。

＜4 年次＞　授業での発表・発言と論文によって評価します。

3. 使用テキスト

こちらから予め指定するものはありません。

4. 応募学生に望むこと

自分自身で問題を見出し、自分自身で考えるようにしてください。

できるだけ二つ以上の外国語に親しんでほしいと思っています。

5. 選考方法

面接。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

できれば講義「宗教と哲学」を履修しておいてください。

7. その他

とくにありません。

25 宮本 大人 教授

1. 演習のテーマ
「メディアと大衆文化／サブカルチャー」

大衆文化（マス・カルチャー／ポピュラー・カルチャー）やサブカルチャーの領域の様々な問題を、そのメディアとの関わりにおいて考える。マンガ、アニメ、テレビ番組、広告、お笑い、ポピュラー音楽などの表現ジャンルに限らず、ファミリーレストランやコンビニなどの大衆的な生活・消費文化、さらにはオリンピックやプロスポーツの大会などの、いわゆるメディア・イベントも視野に入れる。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

＜3年次＞

３～５名のグループで、フィールドワークや文献購読など、共通の課題に取り組むグループ発表や、受講者それぞれの関心に即した個人発表を中心とする。これを通じて、発表を準備するための参考文献・資料の探し方や分析の方法論を学び、多少難解な学術論文も読みこなせる読解力、効果的なプレゼンテーションの技法、６０００字から１００００字程度のある程度まとまった分量の論文の作成能力、活発なディスカッションを行うコミュニケーション能力などを、実践的に培っていく。夏休みに３泊４日のゼミ旅行（参加必須、関西方面の予定）を行う。

＜4年次＞

３年次の終わりまでに卒業論文のテーマを設定し、４年次においてはその準備、執筆を進めていく。もちろん、グループ発表、個人発表、文献講読等、ゼミ全体での活動は３年次同様、継続する。詳しいスケジュールは当該年度の初めまでに決める。夏休みに２泊３日の卒論合宿を行う。課外活動等については３年次のゼミ生と一緒に行う。

(2) ゼミ論の有無

有り。２００００字以上の卒業論文をまとめ、ゼミ全体の卒論集を制作し、学外でも販売する。

(3) 評価方法

発表（３０％）、ディスカッションへの貢献度（３０％）、期末の課題（３０％）、平常点（１０％）。

3. 使用テキスト

そのつど指示します。

4. 応募学生に望むこと

ゼミは、部活のようなものです。担当教員はコーチに過ぎず、実際にｐｌａｙするのはみなさん自身です。このゼミがみなさんにとって充実したものになるためには、みなさん自身の積極的な参加が必要です。

幅広い題材を対象にしてよいゼミですので、集まる人の趣味やライフスタイルも様々だと思います。したがって、「自分と違うタイプの人」と付き合う意欲を持っている人を求めます。いわゆる「社交的な」人である必要はありません。人とのコミュニケーションが苦手でも、とにかく自分の殻に閉じこもらない意欲と努力を見せてほしいということです。

5. 選考方法

事前提出の課題と面接。詳しいことは個別ガイダンスで説明するので必ず出席すること。個別ガイダンスに出席していない場合は選考を受けられない。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

特になし。

7. その他

26 森川 嘉一郎 准教授

1. 演習のテーマ

マンガ・アニメ・ゲーム／デザイン／都市

マンガ・アニメ・ゲームおよびそれらに近接するポップカルチャー、デザイン、そして現代都市に関するさまざまなトピックや調査対象の中から個々に選び、研究を行う。自分で創作的な「作品」を制作し、その公表や流通を成果とするような研究も受け入れる。これまで、マンガ同人誌、ショートアニメ、ゲーム、楽曲、スマートフォンのアプリ、同人グッズなどの制作・頒布、さらには展覧会やイベントの企画・実施など、さまざまなことに取り組む学生がいた。また、英語による発表や論文、作品制作も可とする。

2. 授業内容

（1）授業の進め方

＜3年次＞

各学期の前半は各々の関心領域に沿って、基礎的な文献の洗い出しや、さまざまな調査法の試行を行い、発表とディスカッションを繰り返しながらテーマ設定や資料の採取源、達成目標を明確にした研究計画を作り上げる。学期後半はフィールドワークや取材に重心を移す。各期末には、経過を冊子状の提出物にまとめる。就職を希望する業種によっては、就職活動のポートフォリオの一部となるように作成してもよい。創作的な「作品」を制作する場合には、各学期ごとに成果物を公表するとともに、その反響を簡単なレポートにまとめる。

＜4年次＞

３年次にまとめた成果と経験を下敷きにしながら、研究計画を再構築し、研究に歴史的・社会的な奥行きを与えていくことを追求する。創作を行う場合は、前年度の達成を踏まえて表現の幅や受容の拡大を目指す。

（2）ゼミ論の有無

有り

各々の研究を自分の実績として、将来的な自己プレゼンテーションの材料として活用しやすいように、研究の成果を各期末にそれぞれ 1 冊の本に仕上げる（創作的な「作品」を制作する場合はそれに合った形態でもよい）。

（3）評価方法

発表（40%）、提出物（40%）、平常点（20%）。

3. 使用テキスト

各々のテーマに沿って適宜指示する。

4. 応募学生に望むこと

ゼミのホームページ（http://edu.a.la9.jp/）を見ておくこと。研究したい事柄が、応募の時点である程度思い描けていることが望ましい（後から変更してもよい）。

5. 選考方法

作文と面接（詳細は個別ガイダンスの際に指示する。都合により個別ガイダンスに参加できなかったり留学中だったりする場合は、面接方法等について案内するので演習申込期日の 2 日前までに森川のメール宛てに問い合わせること）。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

ゼミで研究してみたいと考えているトピックについて、試しに関連する文献を探し、読んでみることが望ましい。作品を作りたいと考えている人は、試作をはじめてほしい。

7. その他

フィールドワークや取材を体験するための校外実習を適宜開催することがある。

26　MORIKAWA, Kaichiro　Associate Prof.

1. 演習のテーマ / Theme

This seminar invites students who wish to research Japanese pop-culture, especially *manga*, *anime* and games, as well as those who are interested in urbanism and design. Studies focusing on particular authors, genres, fan-groups, communities or places, together with their interrelations, are welcome.

The seminar also offers an option to let the students produce art works instead of research papers, on the condition that the works are published and distributed in public venues. There have been members who took up making *manga* fanzines to be distributed at the Comic Market, executing exhibitions, creating short films, making computer games, among many others.

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

＜3 年次 / 3rd Year＞

In the first half of the semester, students are to concentrate on determining their interests and pursuits, together with suitable research methods. Digging and mining referential materials are also essential. Every week, the students shall present their progress, followed by discussion. In the second half of the semester, more time shall be devoted to the execution of individual research, whether it be fieldwork, interviews, or experimentation. At the end of each semester, the students are to compile their progress into booklet-form or otherwise.

＜4 年次 / 4th Year＞

Further research shall be conducted, either by extending one's previous year's project, or by starting a project totally anew. Adding historical and international perspectives are encouraged, as well as the pursuit of a well-designed book-form presentation.

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

Students are to present their progress in booklet-form at the end of each semester. Students who choose to produce art works may design their presentation otherwise, depending on their medium.

(3) 評価方法 / Evaluation

Weekly presentation（40%）、Semesterly presentation（40%）、Attitude（20%）

3. 使用テキスト / Textbook(s)

Individually advised.

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

Refer to the seminar website: http://edu.a.la9.jp/

It is preferable that the student holds ideas as to what he/she wants to study, prior to applying to the seminar.

5. 選考方法 / Screening

Essay and interview. Details shall be announced at the guidance session. Those who are unable to attend, including those who are abroad, should request instructions via Morikawa's e-mail address at least 2 days before the seminar application deadline.

6. 演習入室までに学習してほしいこと/ What students should study before starting the Seminar

Hunt for books related to the topics you plan to pursue in the seminar. If you are interested in producing art works, give it a try right away.

7. その他 / Others

The seminar may hold excursions to experience fieldwork.

27 山脇 啓造 教授

1. 演習のテーマ

多文化共生のまちづくり

グローバル化や少子高齢化が進展する中、国籍や民族などの異なる人々が共に生きる多文化共生社会の形成は喫緊の課題といえます。多文化共生の意義を学び、ローカルな課題に取り組みながら、地球時代に生きるためのグローバルな素養を身につけます。具体的には、東京都や中野区など行政や企業、NPO と連携して、対面やオンラインでのワークショップやプレゼンコンテストなどイベントを実施したり、多文化共生をテーマにした動画を制作したりします。地域密着、実践志向で社会連携に力を入れるゼミです。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

＜3年次＞ 最初の２、３カ月に、多文化共生に関する文献を集中的に読みます。その後、多文化共生をテーマにしたイベント開催や動画制作などに取り組みます。

＜4年次＞ 多文化共生をテーマにしたイベント開催や動画制作などに取り組みます。

(2) ゼミ論の有無

任意（書く場合は８０００字程度)。

(3) 評価方法

ゼミ活動への貢献（リーダーシップなど）を総合的に評価。(3、４年共通)

3. 使用テキスト

テキストは特にありません。英語の文献も使います。

4. 応募学生に望むこと

①討論：毎回のゼミで積極的に発言できる人。②行動：授業時間外にも、自発的にまち歩きをするなど、フットワークの軽い人。③共生：様々な文化背景を持った人。外国人留学生（ET 生を含む）の参加を歓迎します。なお、毎回の出席が原則として求められます。授業時間外にイベントを実施する場合もあり、サークルなどを理由とした欠席は認めません。

5. 選考方法

志望理由書（以下のサイトからダウンロードし、必ず面接日の３日前までに提出してください：https://yamawaki-keizo.o0o0.jp/tabunka/seminar/）と面接。選考のポイントは、問題意識、論理的思考力、コミュニケーション力、勤勉性、協調性、学業成績、英語力です。(留学中の学生も原則としてオンラインで面接を行います。)

6. 演習入室までに学習してほしいこと

学部設置科目の「多文化共生論」やダイバーシティ関連科目の履修。

7. その他

入室希望者は、演習案内ビデオやゼミのホームページに必ず目を通し、個別ガイダンスに参加してください。3 年次の４月に国内合宿、8 月か 9 月に海外合宿を行う予定です。イベントは、３年と４年が合同で行います。その準備のため、ゼミの時間が２コマ連続となる場合があります。

28 ワルド，ライアン 講師

※この演習は、学生の希望があれば英語でも指導します。

2. 演習のテーマ

日本宗教史と精神文化

本ゼミの目的は、多角的な（歴史学的、人類学的、美術学的、社会学的、宗教学的な）視点を用いて、古代から現代に渡る、日本の宗教史とその歴史的変遷を共に考えることにある。また、日本に限定することなく、なるべく洋の東西（東アジア、インド、中東、ヨーロッパ、北米など）の宗教史についても考察範囲とし、より比較的な検討を行うように努めていきたい。

2. 授業内容

（1）授業の進め方

＜3年次＞

進行形式としては、日本の宗教史の基礎知識を学びつつ、事前に学生諸君に読んでおいてもらうべき学術論文を担当学生に簡単な要約をしてもらった上、ディスカッションをする。

＜4年次＞

同上

（2）ゼミ論の有無

有り

（3）評価方法

＜３年次＞　平常点（40%）、発表（30%）、レポート（30%）で行う。

＜４年次＞　平常点（20%）、発表（20%）、論文（60%）で行う。

3. 使用テキスト

プリントを配布する。

4. 応募学生に望むこと

積極的にゼミに参加する学生を望みます。

5. 選考方法

面接（詳細は個別ガイダンスの際に指示します。）

6. 演習入室までに学習してほしいこと

特になし。

7. その他

現状（新型コロナなど）とゼミ生のご希望によって合宿・遠足/見学を行う予定です。

28 WARD, Ryan Senior Assistant Prof.

---

1. 演習のテーマ / Theme

This seminar is intended for students who are interested in religious studies, mental health care, and questions concerning life and death.　The seminar is primarily run by the students themselves: each week an individual student makes a 30-40 minute presentation which is followed by Q&A. The professor does show up, unfortunately, and also participates.

In past seminars students have dealt with topics concerning as Japanese religion, psychiatry, bioethics, religion and art, and cross-cultural comparisons of life and death.

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

＜3年次 / 3rd Year＞

The seminar is primarily run by the students themselves: Each week an individual student makes a 30-40 minute presentation which is followed by Q&A. The professor does show up, unfortunately, and also participates.

＜4 年次 / 4th Year＞

Same as above.

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

Yes

(3) 評価方法 / Evaluation

3rd Year: Attendance (40%), Presentation(30%),Report(30%)

4th Year: Attendance (20%), Presentation(20%),Thesis(60%)

3. 使用テキスト / Textbook(s)

Various handouts will be distributed in class as needed.

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

As the topics we deal with are of a highly serious nature, only highly serious students are welcome. Expect to do a lot of work.

5. 選考方法 / Screening

Interviews may be held if needed.

6. 演習入室までに学習してほしいこと/ What students should study before starting the Seminar

None.

7. その他 / Others

2023 年度　国際日本学部演習案内

2022 年 11 月 9 日　　印刷・発行

編集・発行　　明治大学国際日本学部

東京都中野区中野 4-21-1